



# 低炭素杯2017

## 報告書



低炭素杯2017

## 低炭素杯とは

「低炭素杯」は、次世代に向けた低炭素社会の構築を目指し、多様な主体が取り組む、地球温暖化防止に関する活動を表彰する制度です。

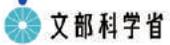
またその制度を通し、全国の優れた取り組みのノウハウや情報を共有し、さらなる活動への連携や意欲を創出する「しくみ」と「場」でもあります。

2011年（平成22年度）から開催し、7回目を迎える低炭素杯2017は、ダイレクトエントリーと地域大会（6地域大会）の計951団体の中から選ばれた26団体がステージ上のプレゼンテーションに臨みました。

開催にあたっては本事業に賛同していただいた企業・団体の皆様からのご支援・ご協力をいただきました。

### 開催概要

日 程	2017（平成29）年2月16日（木）10:00～17:00（9:30開場）
会 場	日経ホール（東京都千代田区大手町1-3-7日経ビル）
入 場 料	無料（事前登録制）
主 催	低炭素杯実行委員会
共 催	一般社団法人地球温暖化防止全国ネット、一般財団法人セブン-イレブン記念財団、株式会社LIXIL
特別協賛	ユニ・チャーム株式会社、株式会社ニトリホールディングス
協 賛	株式会社ウジエスーパー、公益財団法人損保ジャパン日本興亜環境財団、 日本マクドナルド株式会社、レンゴー株式会社、株式会社タカラトミー、 エコワークス株式会社、チェックフィールド株式会社、プリンテックス株式会社、 低炭素化支援株式会社
協 力	株式会社オルタナ、NPO法人気象キャスターネットワーク、 木原木材店（北はりま小径木加工センター）
後 援	環境省、文部科学省、プラチナ構想ネットワーク
事 務 局	低炭素杯事務局（一般社団法人地球温暖化防止全国ネット）
入 場 者 数	約500名

共 催	 JNCCA Japan Network for Climate Change Actions	 一般財団法人 セブン-イレブン記念財団	 LIXIL
特別協賛	 unicharm やさしさをつくる。やさしさでささえる。	 ニトリ NITORI	
協 賛	 UJI スーパー	 損保ジャパン日本興亜環境財団	 MCDONALD'S
	 エコワークス株式会社	 checkfield チェックフィールド株式会社	 PrintX www.printx.co.jp
	 LST	 TAKARA TOMY GROUP	 低炭素化支援株式会社
協 力	 alterna	 Weather Caster Network 気象キャスターネットワーク	 木原木材店 北はりま小径木加工センター
後 援	 環境省 Ministry of the Environment	 文部科学省	 プラチナ構想ネットワーク
主 催	低炭素杯実行委員会		
事 務 局	一般社団法人地球温暖化防止全国ネット		

## あいさつ



低炭素杯実行委員長

小宮山 宏

皆さん！本日は「低炭素杯 2017」のファイナルステージに、ようこそお越しくださいました。  
低炭素杯・実行委員長の小宮山 宏です。

2011年に産声をあげた「低炭素杯」も、今回で7回目の開催を迎えました。

昨年、日本はパリ協定を締結しました。パリ協定は、2015年12月のCOP21で採択され、その後、米中、インド、EUなど、既定数の55か国以上が批准し、発効に至りました。パリ協定が発効された今、一人一人が現状を再認識し、行動を起こす時だと思えます。

その世界の削減目標に貢献していくにたる取り組みが、今、この瞬間にも日本各地で展開されています。学生、企業、自治体、そして地域の皆さんなど、今年は26団体が、この晴れの舞台に集結しています。

ここに集う皆さんは、地球環境や温暖化の現状などに、常にアンテナを張っている方達ばかりだと思います。単に、自らの取り組みを発信するばかりではなく、集まった仲間たちの取り組みなどにも関心を持ち、皆さん同士対話し、学び、より深い関係を構築していきましょう。

どんなに小さな第一歩であっても、そのチカラが集結すれば、地球規模での温暖化防止に役立っていくことも夢ではないと、私は考えます。

今回、ここに集う皆さん、そして「低炭素杯 2017」を応援してくれる力強い仲間として、「さかなクン」にアンバサダー役をお願いしました。

まずは、その「さかなクン」のコメントから、「低炭素杯 2017」をスタートしていきましょう。

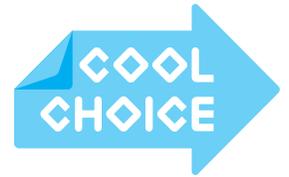
2017年2月16日





環境副大臣

関 芳弘



未来のために、いま選ぼう。

環境副大臣の関 芳弘でございます。

「低炭素杯2017」の表彰式にあたり、環境省を代表して、一言、御挨拶を申し上げます。

2011年の初開催から数えて7回目を迎えた今年の「低炭素杯」には、全国951もの団体からの参加をいただきました。

本日は、26の団体の皆様によるプレゼンテーションが行われ、いずれの団体からも、地域に根ざし、創意工夫に満ちた素晴らしい取組が披露されたと伺っております。

プレゼンテーションをされた皆様、大変お疲れ様でした。そして、文部科学大臣賞をはじめ、既に各賞を受賞されました皆様、誠におめでとうございます。

皆様御存知の通り、昨年、日本はパリ協定を締結いたしました。我が国としても、2030年度26%の温室効果ガス削減を実現するため、着実に地球温暖化対策に取り組んでいかなければなりません。

そのためには、国民お一人お一人に、地球温暖化の危機的な状況を正しく理解していただいた上で、生活のあらゆる場面で、低炭素型の「製品」・「サービス」・「ライフスタイル」を賢く選択する「COOL CHOICE」を心がけていただき、地球温暖化対策を一層進めていただく必要があります。

本日、この場に集われた皆様には、ここで学ばれた知恵をそれぞれの御地元にお持ち帰りいただき、御地域の皆様に地球温暖化対策の取組の自発的な行動を促していただき、地球温暖化防止活動の輪を、一段と拡げていってくださいますことを、心より御期待申し上げます。

結びになりますが、地球温暖化防止活動について学びあい、連携の輪を拡げていくための「場」を全国各地にお作りいただいた実行委員の皆様、御協賛・御協力いただいた企業・団体の皆様、そして、縁の下からこのイベントを支えてくださった地球温暖化防止活動推進センターの皆様、厚く御礼申し上げますとともに、本日御参加の皆様方の今後ますますの御健勝と御活躍を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

2017年2月16日



文部科学省大臣官房審議官

神山 修

低炭素杯2017表彰式の開催にあたりまして、文部科学省を代表して、一言御挨拶いたします。

本日、各賞を受賞された皆様におかれましては、誠におめでとうございます。また、惜しくも入賞には至らなかった皆様におかれましても、それぞれの地域において素晴らしい取組をされているものと承知しております。

改めて皆様の日頃からの御尽力に深く敬意を表します。

文部科学省では、子供がその発達段階に応じて、環境の保全についての理解と関心を様々な機会に深めることができるよう、学校教育や社会教育において環境教育を推進しており、小・中・高等学校の現行学習指導要領において、社会や理科、技術・家庭科など関連の深い教科を中心に環境教育に関する内容の充実を図るとともに、太陽光発電設備など環境教育に活用するエコスクールの整備、青少年教育施設における豊かな自然環境を活用した体験活動の推進等、環境教育の充実に取り組んでいるところです。

地球温暖化防止に関する活動を表彰する制度を通じ、全国の優れた取組のノウハウや情報を共有し、さらなる活動への連携や意欲を創出する場となっている「低炭素杯」は、大変素晴らしい取組だと思っております。この取組により、国民の環境保全に関する理解が一層深まり、各地域における地球温暖化防止活動が更なる発展を遂げることを期待しております。

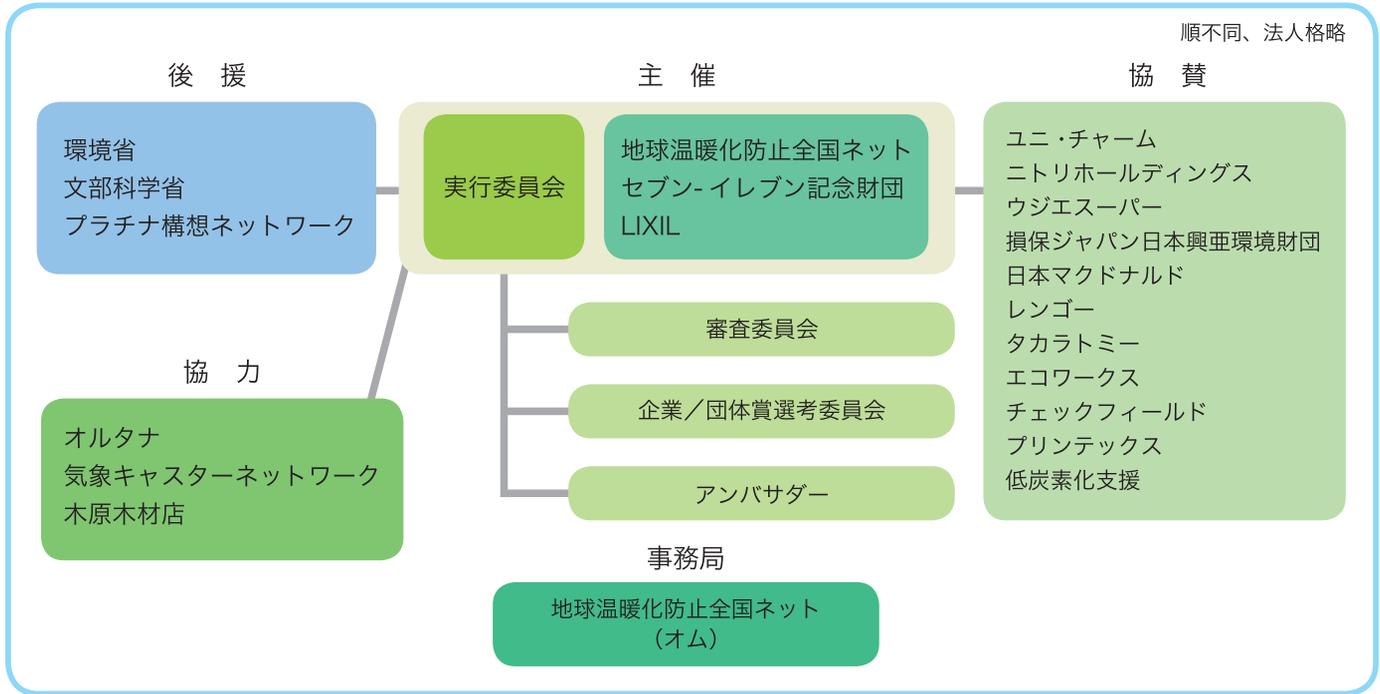
結びに、低炭素杯2017の開催に御尽力いただきました小宮山実行委員長をはじめ、低炭素杯実行委員会委員の皆様、御協賛・御協力いただきました企業・団体の皆様、事務局の皆様に対し、厚く御礼申し上げますとともに、本日御参加の皆様方の益々の御健勝と一層の御活躍を祈念いたしまして、私からの御挨拶とさせていただきます。

2017年2月16日

# 組織体制

低炭素杯2017開催にあたり、主催する実行委員会とファイナリスト選定及び表彰団体選定を担う審査委員会、企業／団体賞選考委員会を下記のように設置しました。

また、本事業に賛同していただいた皆様からのご支援・ご協力をいただき実施しました。



順不同、敬称略

## 実行委員会

委員長	小宮山 宏	株式会社三菱総合研究所 理事長、プラチナ構想ネットワーク 会長
副委員長	金谷 年展	東京工業大学 科学技術創成研究院 特任教授
	長谷川 公一	一般社団法人地球温暖化防止全国ネット 理事長
委員	伊藤 順朗	株式会社セブン&アイ・ホールディングス 取締役 常務執行役員
	佐竹 葉子	株式会社LIXIL 理事 Public Affairs 部門 広報部 部長
	伊藤 賢利	環境省 地球環境局 地球温暖化対策課 国民生活対策室 室長

## 審査委員会

委員長	金谷 年展	東京工業大学 科学技術創成研究院 特任教授
副委員長	岩谷 忠幸	NPO法人気象キャスターネットワーク 事務局長
委員	大森 正之	明治大学 政治経済学部 教授
	堅達 京子	日本放送協会 編成局 コンテンツ開発センター チーフ・プロデューサー
	平田 裕之	一般社団法人環境パートナーシップ会議

## 企業／団体賞選考委員会

委員長	川北 秀人	IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 代表
委員	小野 弘人	一般財団法人セブン-イレブン記念財団 地域活動支援事業マネージャー
	伊藤 弓子	株式会社LIXIL Public Affairs 部門 広報部 コーポレートレスポンスイビリティ推進グループ 主幹
	石村 令子	ユニ・チャーム株式会社 CSR 本部 環境推進グループ マネージャー
	玉上 宗人	株式会社ニトリホールディングス 上席執行役員 総合企画室 室長
	吉田 芳弘	株式会社ウジエスーパー 常務取締役
	佐藤 孝治	公益財団法人損保ジャパン日本興亜環境財団 事務局長
	高林 慎享	株式会社タカラトミー 社長室 社会活動推進課 課長
	岩谷 忠幸	NPO法人気象キャスターネットワーク 事務局長
	森 撰	株式会社オルタナ 編集長

# アンバサダー

低炭素杯2017ではアンバサダーにさかなくんが就任しました。



## さかなくん プロフィール

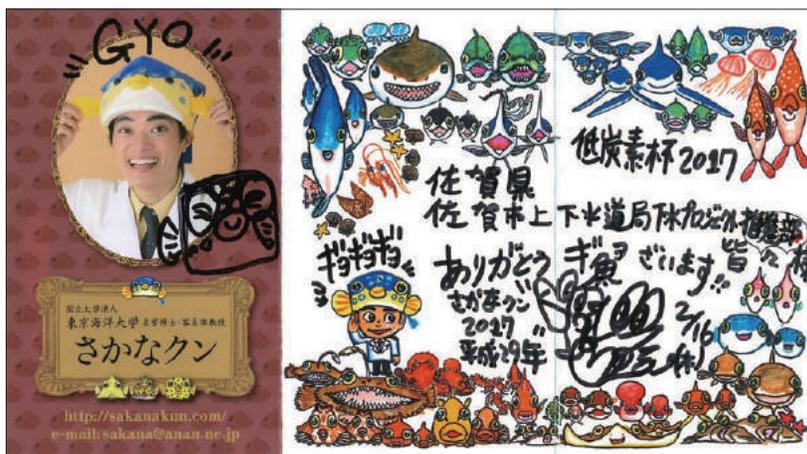
自然保護の面から気候変動を見つめ、地球温暖化防止、低炭素化社会へ配慮した活動を行っている著名人。

魚に関する豊富な知識と経験に裏付けされたトークで知られる。2015年3月には東京海洋大学名誉博士に就任。魚の情報や正しい知識、美味しい食べ方や環境問題、漁業従事者とともに明日の漁業を語る講演等を行う。

また、2010年には絶滅したと思われていたクニマスの生息確認に貢献。さらに海洋に関する普及・啓発活動の功績が認められ、「海洋立国推進功労者」として、内閣総理大臣賞を受賞。

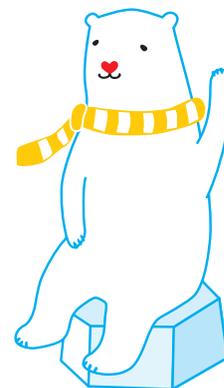
2011年農水省「お魚大使」、2012年文科省「日本ユネスコ国内委員会広報大使」に就任、2014年には環境省国連生物多様性の10年委員会（UNDB-J）「地球いきもの応援団」の生物多様性リーダーを務める。

## さかなくんからファイナリスト26団体すべてに手書きのメッセージをいただきました

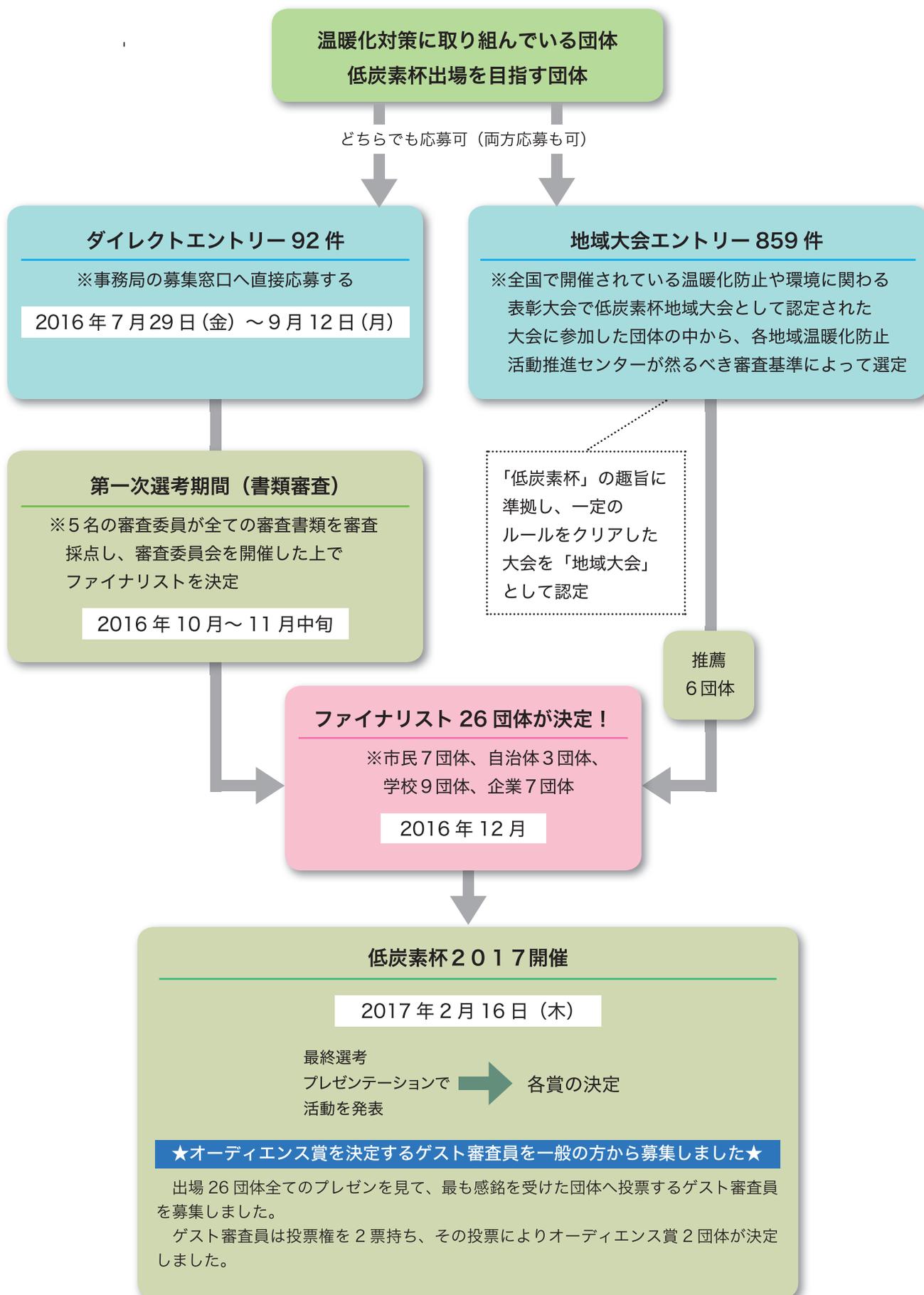


写真は環境大臣賞グランプリ佐賀市上下水道局下水プロジェクト推進部宛のもの

<p><b>名誉賞</b></p> <p>H24 海洋立国推進功労者 内閣総理大臣賞</p> <p>環境省「地球いきもの応援団」 「チャレンジ25キャンペーン」メンバー 「環のくらし応援団」メンバー</p> <p>水産庁「水産政策審議会特別委員」 経産省「漁水万博 日本副サーター」</p> <p>新潟県「新潟おさかな大使」 鳥取県「山陰海岸学園キョウバイサー」 沖縄県「宮古島の親善大使」</p> <p>千葉県 船山市「ふるさと親善大使」第一号 船山市「渚の駅」たてやま名誉職員</p> <p>千葉県 安房博物館客員研究員 兵庫県 明石市「明石たこ大使」 静岡県 御前崎市「なぶら親善大使」</p> <p>日本さかな検定 北とけい応援団 よしとちおらしる水族館&amp;ちんちゃん水族館 研究員 グアム政府観光局「ハッピー大使」</p>	<p>東京海洋大学 名誉博士・客員准教授</p> <p>日本魚類学会会員</p> <p>日本政府・クールアースアンバサダー</p> <p>文部科学省 日本ユネスコ国内委員会 広報大使</p> <p>農林水産省 お魚大使</p> <p>農林水産省 「フードアクション・ニッポン」メンバー</p> <p>JICA (国際協力機構) なんとかしなまや! プロジェクトメンバー</p> <p>WWF (世界自然保護基金) 親善大使・顧問</p> <p>FSC (森林管理協議会) 親善大使</p> <p>JF 全国漁業協同組合連合会 魚食普及推進委員</p> <p>株式会社 アナン・インターナショナル 〒110-0071 東京都港区白金台3-16-8 405 Tel.03-5763-1171 Fax.03-5441-1367</p> <p>さかなくん&amp;ブクブク</p>	<p>独立大学院 東京海洋大学 名誉博士 客員准教授</p> <p><b>さかなくん</b></p>
---	--	--



# エントリー募集から低炭素杯2017開催までの流れ



## ファイナリスト 26 団体（プレゼンテーション順）

### 市民部門

- 1 市民省エネ・節電所ネットワーク <奈良県>  
みんなで省エネ・節電を進める「市民節電所」をつくらう
- 2 NPO法人いきいき安心おおいた <大分県>  
荒れた竹林や田畑の利活用による地域活性化事業
- 3 一般社団法人海っ子の森 <三重県>  
海の森を未来に届けるプロジェクト
- 4 九州版炭素マイレージ制度推進協議会 <大分県>  
九州エコライフポイント（九州版炭素マイレージ制度）
- 5 NPO 法人どんぐり1000年の森をつくる会 <宮崎県>  
未来の子どもたちのためのどんぐり 1000 年の森づくり
- 6 三島市ストップ温暖化推進協議会 <静岡県>  
地域一体となって取り組む  
バラエティ豊かな地球温暖化対策の推進
- 7 モトスミ・プレーメン通り商店街振興組合 &  
グリーンコンシューマーグループかわさき <神奈川県>  
モトスミ・プレーメン通り商店街のエコ調査隊

### 自治体部門

- 8 福井県鯖江市 <福井県>  
どんぐりからの森づくり
- 9 佐賀市上下水道局 下水プロジェクト推進部 <佐賀県>  
昔に帰る未来型  
～佐賀市下水浄化センターを「宝を生む施設」に～
- 10 南陽市 <山形県>  
地域材を活用した世界最大の木造コンサートホール

### 学校部門

- 11 エクセラン高等学校 環境科学コース <長野県>  
「あまのじゃくなエコ活動」と「ぶらすαのエコ活動」
- 12 長崎県立諫早農業高等学校 <長崎県>  
農業廃棄物の有効利用法  
特に規格外かぼちゃと蔓の付加価値対策
- 13 京都府立桂高等学校  
TAFS「地球を守る新技術の開発」研究班 <京都府>  
生体鉱物（MAP）を活用した  
革新的な堤防維持管理技術の開発

- 14 緑のリサイクル・ソーシャル・エコ・プロジェクトチーム <徳島県>  
緑のリサイクルモデル・「刈草堆肥」でストップ温暖化
- 15 越谷市立大袋東小学校 <埼玉県>  
目指せ！環境とエコの達人  
～持続可能な社会に向けた環境教育～
- 16 学校法人緑丘学園 水戸英宏小学校・中学校 <茨城県>  
ホテルネットワーク mito 英宏 eco スクールプロジェクト
- 17 秋田県立秋田北鷹高等学校 科学部「クリクラ」 <秋田県>  
太陽熱を活用した生ごみ乾燥装置の開発・普及活動
- 18 大平山友遊エコクラブ・やまなみこどもエコクラブ <大分県>  
笑顔で広がるエコの芽  
～エコキッズの環境 e-de(い-で) 隊
- 19 壬生北小学校 こどもエコクラブ <栃木県>  
エコキーパー倍増作戦

### 企業部門

- 20 KDDI株式会社 <東京都>  
地球温暖化防止に向けた  
「トライブリッド基地局」の導入について
- 21 積水ハウス株式会社 <大阪府>  
新梅田シティ「新・里山」「希望の壁」  
緑のオアシスで低炭素実現
- 22 有限会社尾塚水産 <鹿児島県>  
ウニ殻アートによる磯焼け防止
- 23 株式会社ブリヂストン 磐田工場 <静岡県>  
今日の最高電力は？  
電気予報で推進する工場全体の省エネ活動！
- 24 株式会社リビエラ <青森県>  
自然にも自分にも優しいリビエラエコシステムで  
低炭素化を推進
- 25 みやぎ生活協同組合 <宮城県>  
SVO コージェネレーション発電機による CO<sub>2</sub> 削減
- 26 倉持産業株式会社 <茨城県>  
「鶏も人も幸せ！」持続可能な低炭素養鶏業の薦め

# プログラム

10:00～10:20 (受付開始 9:30)

## 開会

- ▼ Welcome speech  
低炭素杯実行委員長 小宮山 宏
- ▼ファイナリスト紹介
- ▼審査委員紹介



金谷審査委員長



川北企業/団体賞選考委員会  
委員長

10:20～13:00

## ファイナリスト 26 団体による プレゼンテーション

発表時間 1 団体 4 分

- ▼ 10:20 第1グループ プレゼンテーション  
市民部門・自治体部門 (10 団体)
- ▼ 11:10 休憩 (10 分)
- ▼ 11:20 第2グループ プレゼンテーション  
学校部門 (9 団体)
- ▼ 12:05 休憩 (10 分)
- ▼ 12:15 第3グループ プレゼンテーション  
企業部門 (7 団体)



トロフィー制作者 齊藤公太郎さん



司会の櫻田彩子さん

プレゼンテーションの様子



佐賀市上下水道局下水プロジェクト推進部

13:00～15:00

- ▼環境省 VTR 上映

15:00～15:15

## ステージプログラム

- ▼一般財団法人セブン-イレブン記念財団
- ▼株式会社 LIXIL

15:15～17:00

## 表彰式

- ▼主催者挨拶  
低炭素杯実行委員会副委員長 長谷川 公一
- ▼審査結果発表
- ▼閉会の挨拶  
低炭素杯審査委員長 金谷 年展



学校法人緑丘学園 水戸英宏小学校・中学校



長崎県立諫早農業高等学校

# 低炭素杯2017新しい取り組み

## ステージプログラム

低炭素杯に共催いただいている一般財団法人セブン-イレブン記念財団、株式会社LIXILの活動を紹介しました。

### 一般財団法人セブン-イレブン記念財団



セブン-イレブン記念財団は、セブン-イレブン加盟店と本部が一体となって環境をテーマに社会貢献活動に取り組むことを目的として、1993年11月に設立されました。セブン-イレブン店頭でお客様からお預かりした募金と、(株)セブン-イレブン・ジャパンからの寄付金をもとに環境市民活動の支援を行っています。

- (1)「環境市民活動支援事業」 2016年度 延べ294団体(1億5294万円)助成、環境NPO海外研修
- (2)「自然環境保護・保全事業」 高尾の森自然学校、九重ふるさと自然学校、セブンの森づくり等
- (3)「広報事業」 低炭素杯、生物多様性アクション大賞、森のようちえんフォーラム等
- (4)「災害復興支援事業」 自然災害復興活動、義援金募金活動

CO<sub>2</sub>削減活動として、森林保全プロジェクト「セブンの森」活動を全国に17か所展開し、海洋性のCO<sub>2</sub>吸収につながるアマモ場再生UMIプロジェクトなどにも取り組んでいます。また東京都や大分県とも連携し、「東京:高尾の森自然学校」(2015年4月開校)、「大分:九重ふるさと自然学校」を運営し、環境教育の実践の場も提供しております。

セブン-イレブン記念財団では、地域に根ざした社会貢献活動を展開してまいります。皆様のさらなるご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。



「セブンの森」活動



アマモ場再生UMIプロジェクト



店頭募金箱

### 株式会社LIXIL



## LIXIL 持続可能な社会を目指して

Link to Good Living コーポレート・レスポンスビリティ (CR) 戦略  
世界中で革新的かつ責任ある活動を通して生活の質向上に貢献することで、最も信頼される企業となる

私たちは優れた製品とサービスを通じて、世界中の人びとの豊かで快適な住生活の未来に貢献する

LIXILは、この企業理念のもと、CR戦略を掲げ、「グローバルな衛生課題の解決」「水の保全と環境保護」「多様性の尊重」をその重点課題とし、推進しています。

環境ビジョン実現に向けた環境戦略重点テーマ

1. 気候変動の緩和と適応
2. 水資源の保全
3. 持続可能な資源の利用

省エネに寄与する高断熱窓や、節水・節湯できる水まわり製品など、エコ商品の研究開発に注力しています。



### 水の保全と環境保護

調達から生産、流通、製品の使用・廃棄やサービスの利用に至るまで、全てのプロセスにおいて、水、エネルギー、およびその他の天然資源の保全に努めます。

### 環境ビジョン 2030

2030年までに、製品・サービスによる環境貢献が、事業活動による環境負荷を超える「環境負荷ネットゼロ(±0)」を実現します。



## 環境省 VTR 上映

環境省よりご提供いただいた COOL CHOICE TV 10 作品、「君たちの動画を待っている! 藤岡弘、地球温暖化防止道場」環境大臣賞受賞作品ほか受賞作品 9 作品を上映しました。

## 低炭素杯2017表彰式



ファイナリストプレゼンテーション後に開催された「審査委員会」において今年の受賞者を決定しました。表彰式では環境大臣賞グランプリ（1団体）、金賞（各部門から1団体、計4団体）の受賞者が発表され、関芳弘環境副大臣より各団体の代表の方々に賞状とトロフィー等が授与されました。

また、文部科学大臣賞（社会活動分野・学生活動分野各1団体、計2団体）では、神山修大臣官房審議官より各団体の代表の方々に賞状とトロフィー等が授与されました。

企業/団体賞については、各賞提供のプレゼンターから受賞者（9団体）へ、審査委員特別賞は金谷年展審査委員長から受賞者（2団体）へ、オーディエンス賞は小宮山宏実行委員長から受賞者（2団体）へ賞状等が授与されました。

さらに、今年より新設されたアンバサダー特別賞では、アンバサダーのさかなクンより受賞者（1団体）に賞状等が授与されました。

### 環境大臣賞トロフィー



第1回低炭素杯より風倒木や朽木を利用した環境大臣賞トロフィーを制作いただいているのは群馬県在住の木工造形家齊藤公太郎さんです。

低炭素杯2017のトロフィーは堅い樺を素材として使用し、空目が大変美しい作品です。青い球体（地球）と金色の球体（惑星）により太陽系、宇宙を表現し、また武器にも見えるその姿は、地球温暖化に取り組み、活動していく1人1人の後ろ盾となるようにと齊藤さんからのメッセージが込められています。

### 文部科学大臣賞トロフィー



文部科学大臣賞トロフィーを制作いただいているのは青森県五所川原市の里山に津軽金山焼の窯を開いた松宮亮二さんです。須恵器の強い影響を受けた津軽金山焼は釉薬を一切使わずに、1350度の高温でじっくりと焼きあげて固める「焼き締め」の手法で土本来の深みのある独特の風合いが特徴です。夜通し薪をくべ、巨大な登り窯で焼きあげた土のトロフィーからは、低炭素杯に相応しい風格と強いメッセージが伝わります。

# 低炭素杯2017受賞者一覧

## 環境大臣賞 グランプリ



佐賀市上下水道局 下水プロジェクト推進部

## 環境大臣賞 金賞 市民部門



九州版炭素マイレージ制度推進協議会

## 環境大臣賞 金賞 自治体部門



南陽市

## 環境大臣賞 金賞 学校部門



学校法人緑丘学園 水戸英宏小学校・中学校

## 環境大臣賞 金賞 企業部門



KDDI株式会社

文部科学大臣賞 社会活動分野



NPO 法人どんぐり 1000年の森をつくる会

文部科学大臣賞 学生活動分野



越谷市立大袋東小学校

セブン-イレブン記念財団  
最優秀地域活性化賞



長崎県立諫早農業高等学校

LIXIL  
最優秀エコライフ活動賞



モトスミ・プレーメン通り商店街振興組合 & グリーンコンシューマーグループかわさき

ユニ・チャーム  
最優秀エコチャームング賞



京都府立桂高等学校  
TAFS「地球を守る新技術の開発」研究班

ニトリ  
最優秀夢・未来賞



緑のリサイクル・ソーシャル・エコ・プロジェクトチーム

ウジエスーパー  
最優秀エコオーガニック賞



倉持産業株式会社

損保ジャパン日本興亜環境財団  
最優秀わくわく未来賞



エクセルラン高等学校 環境科学コース

タカラトミー  
最優秀次世代賞



大平山友遊エコクラブ・  
やまなみこどもエコクラブ

オルタナ  
最優秀ストーリー賞



NPO法人いきいき安心おおいた

気象キャスターネットワーク  
最優秀地域・学校エコ活動賞



壬生北小学校 こどもエコクラブ

アンバサダー特別賞



一般社団法人海っ子の森

審査委員特別賞



積水ハウス株式会社 (右)  
株式会社リビエラ (左)

マクドナルド  
オーディエンス賞



越谷市立大袋東小学校 (右)  
学校法人緑丘学園  
水戸英宏小学校・中学校 (左)

優秀賞

市民省エネ・節電所ネットワーク  
三島市ストップ温暖化推進協議会  
福井県鯖江市  
秋田県立秋田北鷹高等学校 科学部「クリクラ」  
有限会社尾塚水産  
株式会社ブリヂストン 磐田工場  
みやぎ生活協同組合



## 優良賞受賞団体紹介

低炭素杯2017より、エントリー団体の中から、ファイナリストに次ぐ優秀な成績を収めた団体に対し、「優良賞」を新設し、優良賞受賞49団体には2016年12月に表彰状を郵送しました。

### 市民部門

- 1 エコなうつわ屋さん <静岡県>
- 2 日本工業大学 <埼玉県>
- 3 NPO 法人 co2sos <岡山県>
- 4 米子工業高等専門学校 B&C 研究同好会 <鳥取県>
- 5 全国生活学校連絡協議会 <東京都>
- 6 みやざき・どんぐりポイントモデル事業実行委員会 <宮崎県>
- 7 NPO 法人 千葉大学環境 ISO 学生委員会 <千葉県>
- 8 地域ぐるみ環境ISO研究会 <長野県>
- 9 紀の川東洋台浜木綿クラブ <和歌山県>
- 10 大分市明野南町自治会 <大分県>
- 11 NPO 法人 横須賀港湾防災支援会 <神奈川県>
- 12 ハの日ジャンプの会 <北海道>
- 13 内濱太鼓台世話人会 <香川県>
- 14 東大宮 CO<sub>2</sub> 削減倶楽部 <宮崎県>
- 15 自然と暮らしを考える研究会 <佐賀県>
- 16 新潟市地球温暖化対策地域推進協議会 <新潟県>
- 17 ねり☆エコ (練馬区地球温暖化対策地域協議会) <東京都>
- 18 学校法人尚綱学院 尚綱学院大学 環境活動サークル FROGS <宮城県>

### 自治体部門

- 19 宇治市 <京都府>
- 20 綾瀬市 あやせ環境ネットワーク <神奈川県>
- 21 藤枝市 <静岡県>
- 22 若狭町役場 <福井県>

### 学校部門

- 23 岐阜県立大垣養老高等学校 瓢箪倶楽部秀吉 <岐阜県>

- 24 徳島県立つるぎ高等学校 <徳島県>
- 25 青森県立名久井農業高等学校 TEAM FLORA PHOTONICS <青森県>
- 26 油木高校 ニカワプロジェクト <広島県>
- 27 長崎県立島原農業高等学校 食品加工部 <長崎県>
- 28 岡山県立津山工業高等学校 工業化学科 <岡山県>
- 29 長崎県高校生・大学生環境会議実行委員会 <長崎県>
- 30 大分県立玖珠美山高等学校 チーム野菜 <大分県>
- 31 静岡県立浜松城北工業高等学校 <静岡県>
- 32 広島県立加計高等学校 <広島県>
- 33 新潟市立早通中学校 <新潟県>
- 34 岐阜県立岐阜工業高等学校 化学研究部 <岐阜県>
- 35 羽島市立正木小学校 <岐阜県>

### 企業部門

- 36 有限会社ナベ企画 <栃木県>
- 37 MHPS エンジニアリング株式会社 <神奈川県>
- 38 有限会社リビング館 ホンダ <茨城県>
- 39 株式会社オオハシ <神奈川県>
- 40 はごろもフーズ株式会社 <静岡県>
- 41 西松建設株式会社 <東京都>
- 42 サンメッセ株式会社 <岐阜県>
- 43 株式会社ユタカ産業 <鹿児島県>
- 44 株式会社ツルオカ <栃木県>
- 45 株式会社 ODK ソリューションズ <大阪府>
- 46 株式会社ナカダイ <群馬県>
- 47 株式会社サイコー <宮城県>
- 48 株式会社メック eco ライフ・三菱地所レジデンス株式会社 <東京都>
- 49 T・プラン株式会社 <大分県>

## 当日会場の様子



トロフィー展示



ロビー展示



受付時の様子



プレゼンテーションの様子



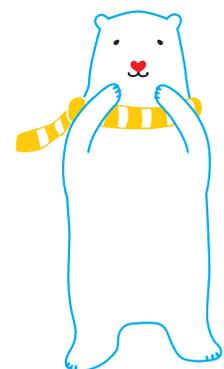
アンバサダーさかなクンの登場



表彰式



交流会の様子



## 昔に帰る未来型～佐賀市下水浄化センターを「宝を生む施設」に～

佐賀市上下水道局 下水プロジェクト推進部

〒 840-0036 佐賀県佐賀市西与賀町大字高太郎 2667

☎ 0952-22-0181 <http://www.water.saga.saga.jp/main/>

「あたりまえの暮らしが地域の力になる」をコンセプトに、人の暮らしから出る「下水」からエネルギー（豊かさ）を作り出し、低炭素・循環型社会を実現へ。佐賀市下水浄化センターでは、迷惑施設と思われがちな下水処理施設を、環境にやさしい歓迎施設「宝を生む施設」に転換するため、下水汚泥の肥料化や下水処理水の海苔養殖・農業への利用、バイオガス発電等の取り組みを積極的に進めています。



## 審査コメント

『昔に帰る未来型～佐賀市下水浄化センターを「宝を生む施設」に～』で高く評価できる点は、単に下水の発電利用や堆肥化などバイオマス活用といった領域をはるかに超え、その肥料でつくられた農作物についての研究やPRなど、農業の活性化を見据えた出口戦略がしっかりしていることだ。これは行政のたてわりを超えた好モデルであろう。

さらに、処理過程で発生する二酸化炭素を活用し藻類の培養をするなどまさに最先端の技術への応用も進めるなど「下水を宝にする」施策としては全国の模範となる素晴らしい取り組みと評価できる。

審査委員長 金谷 年展

## 受賞者コメント

低炭素杯 2017 環境大臣賞グランプリを受賞させていただき、大変嬉しく思っております。佐賀市の取り組み、そして、下水道が有するポテンシャルの高さを、今回の受賞を誇りに、積極的にPRしてまいりたいと考えております。下水汚泥の堆肥化事業は肥料利用者の皆様がいるからこそ成り立っているものであり、そもそも私共の取り組みは人の暮らしから出る「下水」から豊かさを創造するものです。この受賞は市民の方々のご理解・ご協力があってこそこの受賞です。今後とも「人と人とのつながり」を活力に、環境にやさしい低炭素社会構築に貢献する取り組みを進めてまいります。

## 九州エコライフポイント（九州版炭素マイレージ制度）

九州版炭素マイレージ制度推進協議会

〒 870-8501 大分県大分市大手町 3-1-1

☎ 097-506-3031 <http://q-ecolife.com/>

九州地域の住民が「家庭の電気使用量の削減」、「間伐・植樹などの環境保全活動への参加」や「省エネ製品の購入」を行った場合に、地域のスーパーやコンビニ、道の駅での買い物等に使用できるポイント券「九州エコライフポイント」を交付する仕組みです。

ポイント券や懸賞品の交付が、参加者のインセンティブとなるうえ、取扱店でのポイント券使用による地域経済の活性化や特産品PRにつながっています。



## 審査コメント

「九州エコライフポイント」の取り組みは、約五万人におよぶ非常に多くの方々に参加し、住民主体による CO<sub>2</sub> 削減と産業振興を両立させるもので、民間の制度としてここまで実現させた努力は素晴らしいとしか言いようがない。特にエコライフポイント活用店舗の広がりが高く評価できる。

また、県を超えた取り組みも珍しく、新たな地域づくりと CO<sub>2</sub> 削減を実現させるモデルとしてより一層の発掘を期待する。

審査委員長 金谷 年展

## 受賞者コメント

この活動は、自治体だけでは実現できない、環境保全と産業振興の二つをセットにした取り組みです。九州の住民の皆さんはじめ、経済団体、企業、店舗、環境活動団体など、九州地域のさまざまな主体の協力によって運営しています。

今回、市民部門へのエントリーでこのような評価をいただき、「九州エコライフポイント」が、地域の多くの関係者の協働により成り立っていることを、改めて実感しています。

今後も、九州が一体となって、快適で発展性のある低炭素社会の実現を目指し、参加者拡大に努めていきます。

## 地域材を活用した世界最大の木造コンサートホール

南陽市

〒999-2221 山形県南陽市三間通 430-2

☎ 0238-40-1222 <http://www.city.nanyo.yamagata.jp>

平成 22 年度、公共建築物における木材の利用の促進に関する法律が施行され、森林資源の有効活用、木材利用の促進、林業の再生等が求められています。南陽市では、これまでに前例のない木造耐火建築物となる新文化会館の整備（総事業費 6.7 億円）を契機として、川上（もり）から川下（まち）まで関係者が一体となり森林整備及び林業再生に取り組み、持続可能な循環型社会システムの構築を目指した取り組みです。



## 審査コメント

「地域材を活用した世界最大の木造コンサートホール」の取り組みは、建築費全体の 31% を林業に循環させるという地域経済活用の先駆的なモデルであるとともに、世界最大の木造コンサートホールとして全国へ、世界へアピールできる建築物としても見事なものである。

また、杉を活用した最先端の耐火技術を持つクルウッドの開発など大型木造建築への道を拓いた功績も極めて高く評価できる。

さらに森林を守り災害を減らし CO<sub>2</sub> を削減する、いわゆるグリーンレジリエンスの好例とも言えよう。

審査委員長 金谷 年展

## 受賞者コメント

環境大臣賞 金賞 自治体部門の受賞にあたり、文化会館建設にご支援、ご協力を賜りました全国の関係者の皆様に心から御礼を申し上げます。

また、世界最大の木造コンサートホールが完成したことにより、全国より大勢のお客様をお迎えすることができ、感謝を申し上げる次第でございます。

今回、このような名誉を頂戴し、一層の木材利用の取り組み、そして低炭素社会の実現に微力ではございますが貢献してまいりたいと考えております。

ホテルネットワーク mito 英宏 eco スクールプロジェクト

学校法人緑丘学園 水戸英宏小学校・中学校

〒310-0913 茨城県水戸市見川町 2582-15

☎ 029-243-0840 <http://www.mito-eiko.ed.jp/>



昔、ホテルが生息していた偕楽園公園に広がる 500ha の水田は、半世紀以上放置された耕作放棄地となっていました。3 年前、ホテルネットワーク mito を結成し、英宏の泉ホテルプロジェクトがスタート。2,500 人の参加を得て 5ha の間伐を行い、160 t の CO<sub>2</sub> 削減と見事にホテルが再生。学校総出で eco に突入。地域活動にも参加を続け、うちエコ診断、I P C C を経て、学校主催環境フェスタを開催するに至りました。



審査コメント

「ホテルネットワーク mito 英宏 eco スクールプロジェクト」の取り組みは、耕作放棄地の不法投棄の回収に始まり、間伐などにより地域全体や市民を巻き込んで地域ぐるみで森と泉を再生地にしたことだけでも極めて高く評価できるが、その間伐材を散策路の敷石材やペレットストーブの燃料、肥料などへ活用させるという徹底した活動は称賛に値する。

その関東最大級の学校ピオトープから生まれた黄門様ホテルの復活が多くの方に感動を与えたことは想像に難くない。

それにもかかわらず今後まだまだチャレンジし続けていこうと言う姿勢が伝わり、とても応援したい気持ちにさせられる。

審査委員長 金谷 年展

受賞者コメント

「低炭素杯 2017」に今年初めて出場致しましたが、「環境大臣賞 金賞 学校部門」・「マクドナルドオーディエンス賞」と大変名誉ある賞を頂き、身に余る思いです。

学校法人緑丘学園水戸英宏小中学校では、ホテル再生プロジェクトと題して、2 年間に渡り、環境調査や英宏の泉の整備を行ってきました。黄門様のホテル復活とともに、様々な環境保全活動の中で「学園・地域住民・行政」の協力を得ながら、二酸化炭素削減に取り組んできたことが、評価に繋がったのではないかと思います。今後は、この活動を継続していくとともに、環境保全活動の輪をさらに広げてまいります。

水戸英宏中学校 関内 泰和

## 地球温暖化防止に向けた「トライブリッド基地局」の導入について

KDDI株式会社

〒102-8460 東京都千代田区飯田橋 3-10-10 ガーデンエアタワー

☎ 03-6678-1381 <https://youtu.be/CiGGizrzPVo>

KDDIは、従来の商用電力のみを活用する基地局に比べ、年間のCO<sub>2</sub>排出量を最大約30%削減できる携帯電話基地局「トライブリッド基地局」を設置しています。また、インドネシア等途上国に向けた技術移転にも取り組み、同設備の普及に努めています。なお、トライブリッド基地局は、地球温暖化防止対策のみならず、商用電力が絶たれた大規模災害時の対策としても有効であり、今回の熊本地震の被災エリアにも設置されています。



## 審査コメント

「トライブリッド基地局」の取り組みは、基地局で太陽光と蓄電池を活用してCO<sub>2</sub>を大幅に削減させるのみならず、大規模災害時にも稼働できる大変レジリエントな取り組みとしても高く評価できる。

また、インドネシアとの連携では発展途上国にも展開していく姿勢にも共感できる。

とりわけ先駆的にこの取り組みをスタートさせた同社の功績は大きい。

今後の大幅導入計画が実現され、また先導モデルとも言えるこの取り組みが基地局の構築として国内外に広がっていくことを期待するものである。

審査委員長 金谷 年展

## 受賞者コメント

低炭素杯2017において、環境大臣賞 金賞 企業部門を受賞できたことを大変光栄に思っております。当社は、地球温暖化対策と災害対策を両立させる取り組みとして、トライブリッド基地局の設置を日本国内で推進してまいりました。今後は、インドやインドネシア等の途上国に向け、さらに活動の幅を広げていきたいと考えております。今回、同取り組みを皆さんに広く知っていただく場として、低炭素杯に応募いたしました。一般の方に少しでも分かりやすく、また楽しく伝わるよう、8名の社員が頭をひねりながら寸劇を行った結果をご評価いただき、大変嬉しく思います。KDDIは、今後も、地球温暖化防止に向けて全力で取り組んでまいります。

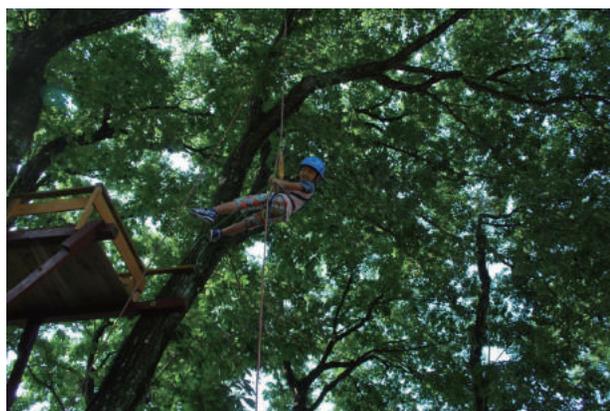
## 未来の子どもたちのためのどんぐり 1000年の森づくり

NPO 法人どんぐり1000年の森をつくる会

〒 889-1801 宮崎県都城市山之内町富吉 2985-26

☎ 0986-57-5228 <http://www.donguri1000nen.jp>

どんぐりを拾い、種をまき、苗を育て、山に植え、下草払い等の管理(5年間)を行うというサイクルで植樹活動に取り組んでいます。この活動の資金確保と誰でも参加できる仕組みとして、一株500円の「どんぐり株主」制度を構築しました。その他に市街地に近い場所に「どんぐり村〜子ども自然塾」(3ha)という体験の森を整備し、環境教育の場として広く一般に開放し、子どもたちに環境の大切さと森遊びの楽しさを教えています。



## 審査コメント

「どんぐり 1000年の森づくり」の取り組みの素晴らしいところは、何と言っても20年間以上この取り組みをしっかりと続け、広げてきたところである。

また「どんぐり株主制度」は参加者の幅を広げる素晴らしいアイデアで、どんぐり株主が12万人にも及ぶのは圧巻である。

このどんぐりの森を自然塾として環境教育に活用し、今後1000年というスケールで次世代の人づくりを実践している姿勢にもとても好感がもてる。1000年先への夢をさらに繋げて行ってほしい。

審査委員長 金谷 年展

## 受賞者コメント

宮崎県の皆さまと共に20年間地道に広葉樹の植樹を行ってきました。地球温暖化防止への一助となり、よい風土を未来の子どもたちに引き継ぎたい、その思いで続けてきた活動です。今回、この活動を全国の皆さまに知っていただく機会を与えてもらい、20年間の思いを込めてプレゼンに臨みました。未来ある限り、この活動に終わりはありません。これからも「今できること、私たちにできること、そして未来につながること、小さな一粒のどんぐりに1000年に夢を」を合言葉に「森づくり」を続けてまいります。

目指せ！環境とエコの達人～持続可能な社会に向けた環境教育～

越谷市立大袋東小学校

〒343-0032 埼玉県越谷市袋山 1750

☎ 048-975-4918 [http://school.city.koshigaya.saitama.jp/obukuroh\\_e/](http://school.city.koshigaya.saitama.jp/obukuroh_e/)



本校の環境教育の特色は、学びと実践を交互に行う点と、同時にその質を高めていく点にあります。具体的には以下の4活動が挙げられます。(1) 授業での環境教育 (2) 日常のエコ活動 (3) 学年園での栽培 (4) 環境の祭典「エコフェスティバル」

また、継続的な学習・活動になるように年間指導計画に環境教育を組み込むとともに、児童間・教員間で成果等の引き継ぎを行っています。



審査コメント

「目指せ！環境とエコの達人～持続可能な社会に向けた環境教育～」の取り組みは、児童が自ら課題を見つけ課題解決を図るための主体的な学びに特徴がある。

とりわけ平成5年のビオトープの整備に始まり、20年以上続く継続的な取り組みはとても高く評価できる。

ESD、日常エコ活動(3R、節電、節水など)、農作物栽培、食育、エコイベントと取り組みが多岐にわたり全校生徒が取り組む総合的な環境教育としては日本でもトップレベルであろう。

審査委員長 金谷 年展

受賞者コメント

本校の取り組みが評価され、2つの賞をいただけたことに対し、自分たちの活動に誇りをもつとともにとても嬉しく感じています。

本校では、生活科と総合的な学習の時間を中心に環境教育を行っています。どの学年も自分たちが見つけた課題を解決するために思考を巡らせ、実践しています。子どもにとって苦労が多いようですが、達成感や充実感も大きいようです。

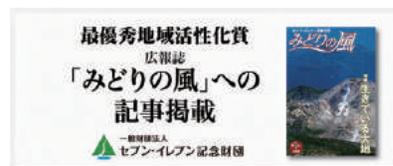
私たちの環境教育を支えてくれている保護者や地域の方、外部講師の方に感謝しています。これから一層、持続可能な社会づくりのために、環境教育に力を入れていくとともに、エコな活動の輪を広げていきたいと思います。

## 農業廃棄物の有効利用法 特に規格外かぼちゃと蔓の付加価値対策

長崎県立諫早農業高等学校

〒 854-0043 長崎県諫早市立石町 1003

☎ 0957-22-0050 <http://www.news.ed.jp/isahaya-ah/>



長崎県はかぼちゃの生産量 8,160 トン、全国第 4 位を誇ります。しかし、その裏側では規格外品として処分されているものが全体の約 20% に上ります。また、かぼちゃを収穫した後に畑一面に残される蔓や葉は、農家にとってはやっかいな存在で、焼却処分されています。そこで私達はかぼちゃの果肉から加工品、葉や蔓から和紙の製造技術を確認し、事業家レベルまで達成しました。この取り組みは全く廃棄物を生じないゼロ・エミッションとなります。



### 審査コメント

長崎県のかぼちゃの規格外品を利用し低炭素な地域活性化につながる活動を評価しました。

長崎県はかぼちゃ生産量が全国 4 位で、そのうち約 2 割が規格外品として処分されています。また収穫後の畑を覆い尽くす蔓や葉を焼却処分しているところに目を付け、地域と連携して、かぼちゃの廃棄物「ゼロ」を目指すため、規定外かぼちゃは特産品月餅の生産会社と共同で中華菓子「つきひめ」を商品開発し、蔓や葉などの農業廃棄物は和紙として有効利用を考えた地元産業・農業の地域活性化に貢献している活動です。

一般財団法人セブン・イレブン記念財団 地域活動支援事業 マネージャー 小野 弘人

### 受賞者コメント

私達はかぼちゃ生産者の方々の悩みを解消するためにこの活動を始めました。工夫したことはかぼちゃの蔓や葉から繊維を抽出するために、私達オリジナルの方法を見出すことができたことです。また、規格外かぼちゃから新しい加工品を開発し、商品化に至るまで様々な苦労があったことは今でも忘れません。

今大会は、環境問題に対して様々な活動を行っていらっしゃる方々の取り組みを知る上で貴重な体験となりました。貴大会事務局の関係者にお礼申し上げます。最後になりましたが、これまでご指導・ご協力していただいた生産農家、和紙工房、そして、顧問の先生方の協力があって今回の受賞ができたと思います。ありがとうございました。

長崎県立諫早農業高等学校 食品科学科 3 年 佐々木 菜摘

## モトスミ・ブレーメン通り商店街のエコ調査隊

モトスミ・ブレーメン通り商店街振興組合 &amp; グリーンコンシューマーグループかわさき

〒213-0001 神奈川県川崎市高津区溝口1-4-1 ノクティ2

☎044-422-3626 (モトスミ・ブレーメン通り商店街振興組合)

☎044-813-1313 (川崎市センター窓口)

最優秀エコライフ活動賞

LIXIL HPでの  
紹介と広報支援LIXIL  
LIFE IN GOOD LIVING

モトスミ・ブレーメン通り商店街とグリーンコンシューマーグループかわさきが協働して、買い物を通して行える環境配慮行動を普及させる取り組みです。各商店が自店で出来る取り組みを登録し、店頭でポスターとして掲げ実施しています。実施内容を、市内の小学生が、年に1回調査をします。現在、約90店舗が運動に参加しています。年々参加者も増加するとともに、エコ調査隊に参加することで小学生の意識も高くなっていきます。



## 審査コメント

モトスミ・ブレーメン商店街は、ドイツ・ブレーメン市ロイドパサージュとの友好を機に、早くから環境に取り組んでこられました。「1店1エコ運動」加盟店は、活動内容を掲示することで環境への姿勢を表明・約束し、同時にそれが購入者へのアピールとなっています。調査隊の質問に丁寧に答え、楽しく会話することは活動の励みとなり、調査する小学生にとっては環境活動の幅広さを知るだけでなく、地域について深く学ぶ機会です。子どもたちが学び、事業主の意識が向上し、商店街の活性につながる実践的で持続的な活動であることを高く評価しました。

商店街事務局と「グリーンコンシューマーグループかわさき」が信頼しあいながら活動をしっかり支えられており、他地域へと広がっている発展性も素晴らしいです。住まいに関わる企業として、このような日々の暮らしと直結したエコライフ活動を応援させていただきます。

株式会社 LIXIL Public Affairs 部門 広報部 コーポレートレスポンスイビリティ推進グループ 主幹 伊藤 弓子

## 受賞者コメント

参加されていた皆さんの環境に対する意識の高さには驚嘆いたしました。私たちの取り組みはCO<sub>2</sub>削減に対しては本当に小さな取り組みかも知れませんが、商店街として取り組むことによって組合員の環境に対しての重要性、また小学校の子どもたちが地球環境の大切さを認識してもらいたい機会になっています。これからもこの運動を継続してゆきたいと思えます。

商店街と消費者の協働は、どこでも実現可能です。多くの地域に広がると嬉しく思います。

## 生体鉱物（MAP）を活用した革新的な堤防維持管理技術の開発

京都府立桂高等学校 TAFS「地球を守る新技術の開発」研究班

〒615-8102 京都府京都市西京区川島松の木本町 27

☎ 075-391-2151 <http://www1.kyoto-be.ne.jp/katsura-hs/>



50年に一度の降雨やゲリラ豪雨等異常気象が続く中、日本の河川管理の重要性が増しています。日本1級河川の河川管理費は、1000億円ですが、そのうち40%は除草に関わる費用です。本プロジェクトは、この除草に関わる河川管理費を、下水処理場で汚泥からリン・アンモニアを取り除く時に結晶化する生体鉱物MAPを活用することで、緑化環境に影響することなく、大幅に削減する革新的な取り組みです。



### 審査コメント

京都府立桂高等学校「地球を守る新技術の開発」研究班の、昨今のゲリラ豪雨や異常気象によって重要性が増している河川管理の除草作業に「生体鉱物MAP」を活用することによって、緑化環境に影響を与えることなく大幅に除草費用を削減する革新的な取り組みに対して、将来の社会貢献度が高いこととニュースキャスター風の発表がチャージングだったことを評価しました。

ユニ・チャーム株式会社 CSR本部 環境推進グループ マネージャー 石村 令子

### 受賞者コメント

この度はこのような栄誉ある賞を頂き、誠にありがとうございます。本研究班では、MAPによる河川環境の改善に向け、日々研究活動に取り組んでいます。発表したプレゼンテーションは、内容をわかりやすく、かつ会場の皆さんに笑ってもらうことを意識して練習しました。これらが、このような形で評価されたことに、班員一同で喜んでます。これからもより一層研究活動に励み、班員一丸となって持続可能な開発を目指して頑張ります。

緑のリサイクルモデル・「刈草堆肥」でストップ温暖化

緑のリサイクル・ソーシャル・エコ・プロジェクトチーム

〒771-4305 徳島県勝浦郡勝浦町大字久国屋原1  
 徳島県立小松島西高等学校勝浦校(徳島県立新野高等学校)  
 ☎0885-42-2526



近年、日本各地で未曾有の自然災害が発生しています。その原因の一つが地球温暖化です。そこで、河川や道路等の維持管理で発生する「刈草」が植物廃材として焼却処分され温暖化の原因であるCO<sub>2</sub>として排出されていることに着目し、「刈草」を有効活用するリサイクルの先導的な事例を生み出し、CO<sub>2</sub>の排出削減と共にその活用方法を家庭や地域・学校に提供し資源循環型・脱炭素社会の構築に向けた啓発実践活動に取り組んでいます。



審査コメント

ニトリ最優秀夢・未来賞は、環境問題への取り組みを通して、夢や希望に満ちた輝かしい未来を、みんなで築いていきたいという想いでネーミングをいたしました。

「緑のリサイクル・ソーシャル・エコ・プロジェクトチーム」の取り組みは、「刈草」というどこにでも存在するものに着目し、高校生のみならずが主体となって堆肥の開発を行い、実用販売していくというチャレンジ精神に溢れたものでした。また、徳島県において糖尿病対策が必要であるという問題点を発見し、「使う人」の立場に合わせてアレンジを加え広く普及させる行動力など、わが社の取り組んでいるビジネスにも通じるものがあり、より良い未来へつながっていく可能性を大きく感じさせる素晴らしい内容であったと思います。

若いエネルギーによって創り出されたこの取り組みが、徳島から全国へ、そして世界へより発展的に継続していくことを期待しております。

株式会社ニトリホールディングス 代表取締役社長 白井 俊之

受賞者コメント

私たちは、植物廃材として焼却処分されていた「刈草」を有効活用した資源循環型肥料「もったいない2号」を開発しました。そして、脱炭素社会の構築に向けた地球にやさしい暮らしを提言しています。活動は今年で7年目になります。

この度「ニトリ最優秀夢・未来賞」を受賞し、とても思い出に残る活動になりました。市民の方から「昨年もらったアサガオで今年も緑のカーテンをしています」と言われたことがとても嬉しく印象に残っています。今後も「未来の地球のために私たちができること」を活動テーマに地球温暖化防止活動に取り組んでいきます。

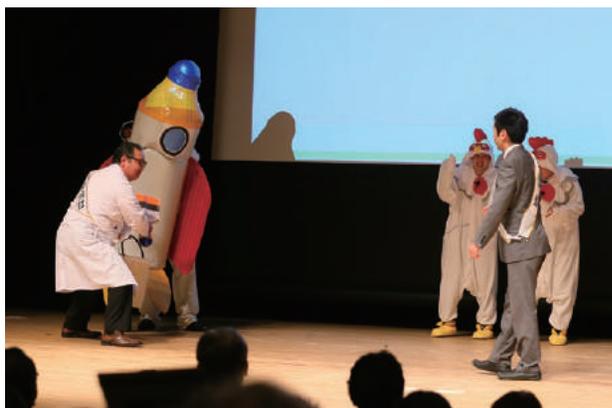
## 「鶏も人も幸せ！」持続可能な低炭素養鶏業の薦め

倉持産業株式会社

〒303-0044 茨城県常総市菅生町 683-1

☎0297-27-1131 <http://www.kuramochisangyo.jp/>

当社の環境への取り組みは「過去からの恩返し」の気持ちから始まりました。近隣への悪臭や排水、廃棄物処理等真摯に取り組みました。たまごの出荷量の60%は契約農場から仕入れてます。自社で品質管理室(3名)環境改善提案部(2名)を設け、契約農家の品質管理、飼育環境の指導、良質な餌や薬品、環境省エネ機器の販売をしています。各種コンクール、業界誌、省エネTV番組等で成功事例を紹介し、先進養鶏を推進します。



## 審査コメント

毎日120万個のたまごを生産する倉持産業(株)様に本年度のウジエスーパー最優秀エコーガニック賞を贈呈させていただきます。

御社の二酸化炭素削減は以下の5点の施策で実現されております。①ハイブリッドカー20台 ②太陽光パネル設置 ③エアコン省エネコイル19台 ④電磁波の少ないLEDに交換 ⑤ロケットにも使う遮熱塗装。15年前に品質管理室、7年前に省エネ・環境改善提案部を設置し、一貫して契約農家様と手を組んで地域低炭素社会の構築に御努力されて来られました。その一途な姿勢はまさにエコと食の融合を意味するエコーガニックに最も相応しい事業であります。

食は人を良くすると書きます。ストレスのない環境で産み落とされたたまごによって、全国の食卓に笑顔の花が咲き続けることを心からお祈りいたします。この度は誠にありがとうございました。

株式会社ウジエスーパー 常務取締役 吉田 芳弘

## 受賞者コメント

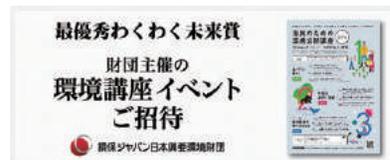
倉持産業(株)は養鶏と鶏卵、飼料の販売をする会社です。長年の当社の環境への思いと取り組みを、紹介したいと低炭素杯に応募しました。今回2度目の挑戦で、ファイナリストに選ばれ、まさかの最優秀エコーガニック賞を受賞、有難うございました。パワーポイントや寸劇は、不安で一杯でした。茨城県の環境関係の方々の暖かいご指導と、社員の協力で何とか完成。当日の各団体の発表は素晴らしく、レベルの高さに圧倒されました。私達の環境への熱い思いを、もっと多くの人に広げたい、子供達の未来の為に。低炭素杯スタッフの皆様ご苦労様でした。

「あまのじゃくなエコ活動」と「ぷらすαのエコ活動」

エクセラン高等学校 環境科学コース

〒390-0221 長野県松本市里山辺 4202

☎ 0263-32-3705 <http://www.excellent.ed.jp>



今「エコ」「省エネ」「環境にやさしい」という言葉があふれています。でも「それって本当にエコなの?」という疑問を持ち、いろいろな方向から調べ考え活動を始め「天邪鬼エコ活動」(マイバッグやエコキャップや太陽光発電)、これまで継続して行ってきたエコ活動にあと一つ低炭素社会実現のための要素を加える「+αエコ活動」(植物の苗ポットを生分解性プラスチックに変更、竹の利用を考え実施する)を行っています。



審査コメント

損保ジャパン日本興亜環境財団では「わくわく未来賞」という名称で、未来に繋がるような取り組みを応援したいと考えています。エクセラン高校の「あまのじゃくなエコ活動」と「ぷらすαのエコ活動」では、巷にあふれる「エコ」、「省エネ」、「環境にやさしい」という活動は本当にエコなのか?、まず根本に立ち返って検証をしてみようというもの。その批判精神は、つついネット情報を鵜呑みにして「環境によさそうだ」などと考えてしまう我々大人の眼を開かせてくれました。

溢れる情報に踊らされず、まず自分の頭で考えてみることを、そして本当に正しいことを選択して一生懸命取り組むこと。この姿勢はまさに明るい未来につながると思います。エクセラン高校の今後の活動から何が生まれるのか、本当にわくわくします。

公益財団法人損保ジャパン日本興亜環境財団 事務局長 佐藤 孝治

受賞者コメント

私たちエクセラン高校の環境科学コースでは「自然環境」「身近な生活」「放射線」の3つの柱で「環境問題」を見つめ、自分たちができる事を実践してきました。共通しているのは「持続可能な社会を作っていくために低炭素な生活を実現していく」ということです。

ファイナルでは全国から集まった企業の方や市民の方の活動を知ることができて、環境に向かう情熱を感じました。私は4月から専門学校に進学して研究としての活動は続きませんが、物事の見方や考えたことを今後の生き方に生かして、地域に根付いたかっこいい消費者生活者になっていこうと思いました。

エクセラン高等学校 3年 阿南 智也

## 笑顔で広がるエコの芽～エコキッズの環境 e-de(い-で) 隊

大平山友遊エコクラブ・やまなみこどもエコクラブ

〒 874-0841 大分県別府市竹の内 10 組

☎ 0977-75-7999



自然観察会や地域のゴミ拾い、手作り石鹸づくり、廃油でのろうそく作り、アースディでの展示や廃材ワークショップなど、自然を調べ、川を守る活動や環境に優しい町づくりに協力をしています。活動をまとめた壁新聞や水辺の観察会で作ったオリジナル下敷きは啓発に利用しています。また、施設の慰問や花植え、キャンドルナイトなどでの地域との交流は、豊かにのびのびと生活できる福祉とエコの芽を広げています。



### 審査コメント

タイトルの「笑顔で広がるエコの芽」をまさに実践する活動です。毎月のように企画されたエコ活動は、水辺の調査や花植え、キャンドルナイトなど3才～6年生と幅広い子どもたちが参加できる活動が中心です。

活動の背後には、ご指導されている大人の知恵と優しさがみえてとれます。花植えには給食の残飯を肥料化して使用しています。水辺の観察会では、補助事業を活用し調査結果を下敷きにして配布することで、啓発活動につなげています。また、キャンドルナイトでは、知的障害や高齢者施設等も協力して地域の交流の一翼を担っています。

子どもたちは、活動に参加することで環境とあわせ社会との関わりも体験できる素敵な機会になっています。この活動は子どもの笑顔を生み出し、周りの大人たちの思いに支えられ、活動の輪が広がっています。このすばらしい取り組みを応援させていただきます。

株式会社タカラトミー 社長室 社会活動推進課 課長 高林 慎享

### 受賞者コメント

キャンドルナイトの開催までには、キャンドルづくり(廃油や容器の回収)やランタンづくり(ペットボトルの容器や牛乳パック、ガムテープの芯などを利用)をします。材料の調達や製作までの準備を子どもたちが行います。また、今年は高齢者や障がい者施設との共同開催を企画しました。午前の部と午後の部と二部構成にし、ランタンづくりや環境カルタ取り会、施設交流など多くの方が参加できるように工夫しました。また、別府市で進められている湯けむり発電やバイナリー発電を取材しまとめた壁新聞の活動は、東京で開催されるこどもエコクラブ全国大会で、他県の皆さんに紹介し、交流をしようと思っています。

エコキーパー倍増作戦

壬生北小学校 こどもエコクラブ

〒 321-0207 栃木県下都賀郡壬生町北小林 190

☎ 0282-86-0064 <http://www.mibu.ed.jp/esmibukita/>



これまで児童自身が学んできた環境問題やエコ活動の意義、楽しさを、多くの人に伝えるための活動です。校内の活動はもとより、町主催の「健康福祉まつり」、地域に伝えるための「PTAバザー」で自分達の活動を伝えるためのブースを出し、エコ活動を体験してもらうことで、環境を守る仲間を増やす取り組みです。



審査コメント

壬生北小学校こどもエコクラブによる「エコキーパー倍増作戦」は、低炭素社会に向けた実践活動に留まらず、その意義や楽しさを多くの人に伝え、賛同者を増やそうとしている点で、高く評価させて頂きました。活動内容もさることながら、低炭素杯2017での生徒二人による発表は小学生とは思えない立派な発表で、とても素晴らしいものでした。地球温暖化問題は関心の高い人だけでなく、多くの国民の参加が不可欠ですので、エコキーパーが今後、さらに増えていくことを期待しています。

NPO法人気象キャスターネットワーク 事務局長 岩谷 忠幸

受賞者コメント

実際に低炭素杯で発表をして、すごく緊張して言葉につまってしまったところもありましたが、学校の代表として、自分たちのやってきたエコ活動をより多くの人たちに知ってもらえたので良かったです。

また、他の団体の発表を聞いて、実際やってみたいと思う活動がたくさんありました。僕たちはもうすぐ小学校を卒業しますが、これから先も地球温暖化を少しでも食い止められるよう、続けて活動して行けたらなと考えています。低炭素杯に参加できてよかったです。

## 荒れた竹林や田畑の利活用による地域活性化事業

NPO 法人いきいき安心おおいた

〒870-1141 大分県大分市大字下宗方 286-1

<http://ikiiki-oita.lar.jp>

過疎化が進んでいる集落周辺では、山竹林および田畑が荒れ、里地里山の保全が難しくなっています。そうした地域に地域活性化を願い、活動をしたい人たちがいます。弊NPOは、この願いを受け止め、放置竹林整備と廃竹材利活用、さらに耕作放棄地利活用の米作りを、地域の人的資源（活動したい人たち）も活用し、活力のある地域を再生する取り組みをしています。



## 審査コメント

「NPO法人いきいき安心おおいた」は、特に九州や四国において深刻な放置竹林／竹害という社会課題を解決するため、さまざまなユニークな活動に取り組み、地域活性化につなげるとともに、竹をエネルギーに変えることで低炭素化の取り組みにも優れた実績を上げられました。

さらには、地域の大学などと連携し、セルロースナノファイバーや燃料電池など最先端のテクノロジーも取り入れられたのは、出色です。このほかシイタケ栽培や肥料づくりなど、そのアイデアの豊富さには驚かされました。

こうした様々なアイデアを一つのストーリーに紡ぎ、全国に発信していかれる熱意と努力を十分に感じました。この点において、オルタナから「ストーリー賞」を進呈させて頂くことになりました。今後とも、地域での「横の連携」を活かして、地域の農業を活性化する仕組みを確立していかれることを期待しています。

株式会社オルタナ 編集長 森 摂

## 受賞者コメント

全国から、温暖化防止という地球規模の課題に取り組む団体が、一堂に会して賞を競う「低炭素杯」に出場できたことに感動しています。私たちは、「自分の住む地域を住みやすくするために、できることをやろう！」と、6年前にNPOを立ち上げたばかりですが、会員のやる気と智慧が、このような幸運を得たのだと互いを評価し、自信をもつことができました。

また、「オルタナ最優秀ストーリー賞」を受賞できましたから、これから、私たちの取り組みが、ソーシャル・イノベーション・マガジン「オルタナ」を通して、全国発信されるので、大変嬉しく思います。

## 海の森を未来に届けるプロジェクト

一般社団法人海っ子の森

〒514-2304 三重県津市安濃町太田 1603-29

☎ 059-221-0909 <http://umikko.jp>アンバサダー特別賞  
アンバサダー  
サイン入り  
グッズ

藻場（海藻の森）が持つ豊かな海の生物多様性の役割に関して子供たちだけではなく広い年齢層に教育を行っています。活動は1月に水産研究所で海藻苗を種付けし、4月には実際に大きくなった海藻に触れ海藻の植林活動を行い、7月には海藻の成長をシュノーケリングで観察し、秋には収穫祭といった海の恩恵による交流会を開催しています。海っ子の森は、海のビオトープ作りにより一年を通して体験するプログラムを行っています。



## 審査コメント

海と森が全部繋がっていて、そしてわかめを育てられて、海を大切にされている想い、また全部が繋がっているということを強く学ばせていただいて、とても嬉しく思いました。

そして、実はですね、海っ子の森の皆様のパンフレットを見せていただいたんですけど、本当に選ばせていただいた後だったんですけど、ギョギョツ、あれっ、あれっ、なんか、これ、おわせひのきと書かれているこの写真に魚の絵が描いてあるんですけど、これ、以前ワタクシが描いた絵なんです。本当にびっくりして、本当に数分前に気が付いたんですけど、ギョギョツと。実は、東京のですね、とってもおいしいお魚料理のお店でクエをいただいて、あまりにも美味しくてウマ〜イ!とですね、クエちゃんを描いたこの絵が、写真で…ほんとね、びっくりしまして。やっぱり、繋がってるんですね〜。とても嬉しく存じます。

低炭素杯2017アンバサダー さかなクン

## 受賞者コメント

12年前の会の発足時から継続している「未来に海の鎮守の森を届けるプロジェクト」の一部を紹介しました。初めての低炭素杯への挑戦でファイナリストに選出され、貴重な、そして愉快的な体験をする事ができました。大変感謝しております。海を豊かに守ることが低炭素な生活に繋がるという事を伝え、会場の皆さんに海への関心を高めてもらおうとの想いを4分間の発表に込め、大漁旗で作った半被に身を包み臨みました。こんな私達が、さかなクンからアンバサダー特別賞を頂けたことは、大変な衝撃でギョございました。

## 新梅田シティ「新・里山」「希望の壁」緑のオアシスで低炭素実現

積水ハウス株式会社

〒579-8065 大阪府大阪市北区大淀中 1-1-88 梅田スカイビルタワーイースト 10F

☎ 06-6400-3374 <http://www.sekisuihouse.co.jp/sustainable/biodiversity/objective1/7/index.htm>  
<http://www.sekisuihouse.co.jp/exterior/ext02.html>

大阪の中心梅田「新梅田シティ」内、「新・里山」は、2006年7月にオープン。日本の原風景「里山」をお手本とした庭づくり、積水ハウス株の「5本の樹」計画に基き、地域の在来種を中心に雑木林や田畑を設け、公開空地として一般公開。安藤忠雄氏発案当社施工の「希望の壁」とともに、ビルのオフィスマーカー、地元の幼稚園、小学校、近隣の方々と一緒に、都会の中で自然体験ができる場として10年間愛され続けています。



### 審査コメント

『新梅田シティ「新・里山」「希望の壁」緑のオアシスで低炭素実現』の取り組みは、雑木材、棚田、水田、花と蝶の庭、菜園ガーデン、ピオトープ、水辺、鎮守の森等7エリアからなる「新・里山」と巨大な壁面緑化の「希望の壁」が大阪の中心部につくられ、大都市にしながら生物多様性の重要性が自然と学べるもので、多くの観光客も訪れ、この種のものとしては圧倒的なスケール感である。

ハイタカ、ミゾコイ等絶滅危惧種の珍しい野鳥が飛来したことも象徴されるように「新・里山」は生態系保全という重要なミッションを果たした。ビジネスワーカーに対し、農作物ボランティアを呼びかけたり生物多様性懇談会を開催する等ソフト面も充実していて極めて高く評価できる。

審査委員長 金谷 年展

### 受賞者コメント

このたびは、素晴らしい賞を受賞させて頂き、感謝申し上げます。「新・里山」は「5本の樹」計画にもとづき、日本の原風景をお手本に田んぼや、畑、水辺など四季折々の風景を楽しんで頂けます。

また、地元をはじめ、国内・外の皆様に愛されています。緑の緑化壁「希望の壁」とともに、エコファースト企業として、緑化事業を通じて、低炭素な未来を子どもたちへ残せるよう、活動を継続し続けたいと思います。ありがとうございました。

## 自然にも自分にも優しいリビエラエコシステムで低炭素化を推進

株式会社リビエラ

〒030-0852 青森県青森市大野山下 48-3

☎ 017-729-1781 <http://www.aomori-riviera.co.jp>

雪国における悩みである冬の雪対策として、当社は、地下水熱利用による低温融雪設備を提供しています。1本の井戸で揚水と還元を行い、揚水した地下水は熱を取り出された後、空気に触れることなく還元されるため水質汚染の可能性も低いです。また融雪の熱源は地下水の熱だけなので、ポンプの動力とシステム制御にしか電力は使いません。そのためランニングコストを抑えながらも化石燃料使用は0となり、CO<sub>2</sub>排出量削減に貢献しています。



### 審査コメント

「自然にも自分にも優しいリビエラエコシステム」の取り組みは、昨今、CO<sub>2</sub>削減のソリューションとして大変注目されている地下水熱を活用したものだが、冷・暖房や融雪を必要温度に応じて最適な温度でカスケード利用するシステムで、CO<sub>2</sub>削減効果のある地下水熱利用をさらに効果を高めるものとして極めて高く評価できる。

また、地下水規制の厳しいエリアでの新たな井戸に挿入できる熱交換器も開発するなど、今後の様々な地下水熱活用の道を拓くものとして大いに期待できる。

審査委員長 金谷 年展

### 受賞者コメント

今回ファイナリストとして参加させていただき、各地域の学生や団体が一生懸命低炭素化に取り組んでいる様子がかがわれ、また、このような賞をいただけたことを大変うれしく思います。学生の域を超えた素晴らしい研究や、汚泥利用によるコージェネなど、技術大国日本の創意工夫を目のあたりにし、感動、感銘を覚えました。弊社は石油依存の高い雪国ですが、低炭素化の意義を地域にPRしながら邁進したいと考えております。

## みんなで省エネ・節電を進める「市民節電所」をつくろう

### 市民省エネ・節電所ネットワーク

〒 631-0046 奈良県奈良市西千代ヶ丘 3-22-16

☎ 0742-49-6326 <http://negawatt-nw.com/>

省エネ・節電に取り組む市民（グループ）を協定、情報交換、CO<sub>2</sub>削減量の買い取りで支援する国内初の「仕組み」を使った市民節電所を、啓発活動やIT技術等の活用によって全国に設立することで、市民（家庭部門）の電気・ガスの使用量、さらにCO<sub>2</sub>排出量の削減を目指しています。具体的には、ホームページ (negawatt-nw.com) を立ち上げ、また市民節電所「まほろば」を6月にスタートさせました。



## 地域一体となって取り組むバラエティ豊かな地球温暖化対策の推進

### 三島市ストップ温暖化推進協議会

〒 411-8666 静岡県三島市北田町 4-47

☎ 055-983-2647

三島市ストップ温暖化推進協議会では、イベント部会、活動広報部会、環境教育部会の3つの部会を設置し、それぞれの部会によって年間を通じた地球温暖化防止活動を展開しています。主にイベント部会では夏場の環境体験講座、活動広報部会では活動拠点であるエコセンターを活用した地球温暖化防止活動の啓発、環境教育部会では地域の依頼に応じた出前講座を実施しています。



## どんぐりからの森づくり

福井県鯖江市

〒916-0047 福井県鯖江市西山町 13-1

☎ 0778-53-2227

市内全 12 小学校児童を対象に、「森づくり教室」を開催し、どんぐりの苗を約 2 年間育て、成長した苗を山や公園に植樹するという活動を平成 20 年より開始し、本年で 9 年目を迎えます。当市では 12 小学校合わせ 1 学年約 800 名の児童が在籍し、3 年生・4 年生・5 年生・6 年生の児童 3,200 名が毎年この事業に参加しています。また、この活動は、ただ苗を育て植えるだけでなく、その学年折々に温暖化防止の学習を繰り返しています。



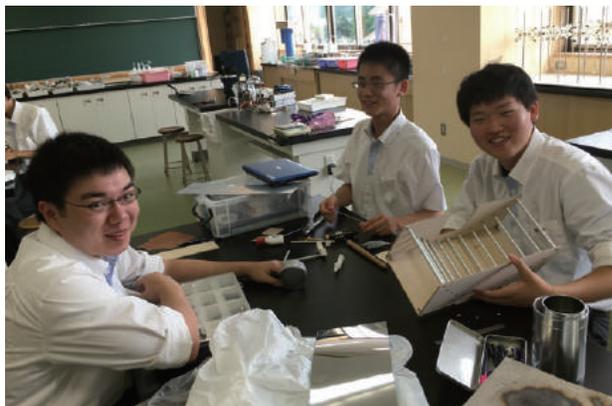
## 太陽熱を活用した生ごみ乾燥装置の開発・普及活動

秋田県立秋田北鷹高等学校 科学部「クリクラ」

〒018-3314 秋田県北秋田市伊勢町 1-1

☎ 0186-60-0151 <http://www.akitahokuyou-h.akita-pref.ed.jp/>

「アイデアで低炭素社会の実現に貢献する!」をモットーに国内外で適用できる温室効果ガス排出抑制の技術開発に取り組んでいます。具体的には、ごみ焼却場での化石燃料使用量の削減に貢献すべく、約 8 割が水分と言われている家庭から出る生ごみの水分量を太陽熱の活用により乾燥させる装置を開発しています。国外、特に開発途上国では、家庭ごみの減量化への貢献を目指しています。



## ウニ殻アートによる磯焼け防止

有限会社尾塚水産

〒899-1627 鹿児島県阿久根市西目 6675-1

☎ 0996-72-0742 <http://www.ozuka.co.jp>

従来、ウニの加工工程で排出されるウニ殻や、磯焼け防止のために駆除したウニなどは野積みや埋没処理され、少なからぬ公害源になっていました。弊社はこれらのウニ殻を焼成してカルシウム剤を製造する一方、ウニ殻から工芸品も開発し、収益を生むことに成功しています。そして、この収益の一部を還元してウニ駆除活動を支援するとともに、工芸品の展示や体験学習の機会を通じて、海の環境を守ることへの啓蒙に努めています。



## 今日の最高電力は？ 電気予報で推進する工場全体の省エネ活動！

株式会社ブリヂストン 磐田工場

〒438-0004 静岡県磐田市匂坂中 17-3

☎ 0538-38-6360 <http://www.bridgestone.co.jp/>

弊社が掲げる「環境宣言」によって定められた CO<sub>2</sub> 削減目標を達成するために磐田工場では従業員一人ひとりが自分事として省エネ活動を意識するような仕組みとして「電気予報」「省エネニュースの発行」と言った活動をしています。

また、社内活動だけにとどまらず行政に働きかけ「しずおか未来の森サポーター協定」を締結、磐田市にある森林の保全活動「エコピアの森 磐田」に取り組んでいます。



## SVO コージェネレーション発電機による CO<sub>2</sub> 削減

みやぎ生活協同組合

〒 981-3194 宮城県仙台市泉区八乙女 4-2-2

☎ 022-218-3880 <http://www.miyagi.coop/>

植物性の廃食油をろ過しただけの全国初となるSVO（ストレートベジタブルオイル）を燃料としたコージェネレーション発電機を活用して、電力の供給を行うと同時に、発生する高温熱エネルギーを廃熱回収して、エネルギーを有効に利用するシステムを構築しています。

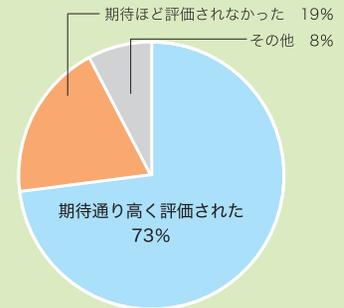


## ファイナリストの声

n=26

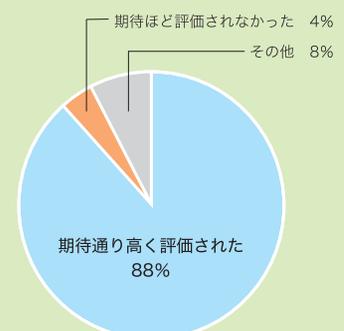
### 貴団体がファイナリストに選ばれたことは内部でどのように評価されましたか

- ・地域の方々から生徒たちへ激励のお言葉やメッセージをいただきました。
- ・信じて続けてきた活動が認められ、大変ありがたく思っております。
- ・ファイナリストなど期待していなかったため、大変驚きました。
- ・取り組み期間が短かったこともあったため、期待以上に評価された。
- ・小規模な取り組みにも暖かな評価を頂いたことをうれしく思います。



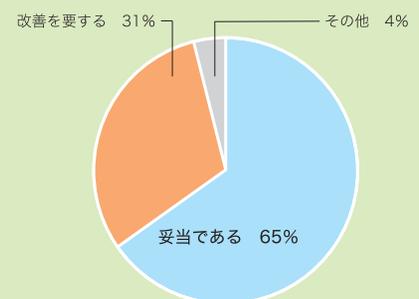
### 貴団体がファイナリストに選ばれたことは周囲でどのように評価されましたか

- ・シンポジウムや市主催の環境交流会で、事例発表の機会をいただきました。
- ・県知事、市長などの行政関係者や、環境関係他団体からも評価されました。
- ・「ファイナリスト」が浸透していないのか「最終コンペに残った」の表現が相手に通じやすかったです。
- ・地域の方々をはじめ活動に協力いただいた方々から暖かい応援のメッセージを沢山いただき生徒たちの励みになりました。
- ・他団体と協力して取り組ませていただき、高評価を頂きました。



### 低炭素杯の開催曜日（平日）について

- ・イベント関係、会議関係は、土日が多いので、平日は参加しやすいです。
- ・市民団体、特に他に定職を持っているメンバーが多い団体にとって、平日開催は厳しいものが有ります。
- ・多くの方の傍聴を考慮するなら土曜日開催が良いのではないのでしょうか。



### プレゼン（発表）の演出ルールについて（時間、音楽、会場の制約など）

- ・妥当だと思うが、出演者に時間が分かるようにしてほしい。
- ・4分は短いかとも思いましたが、その中での工夫がなされており良かったです。
- ・プレゼンの上手下手に左右されることなく活動を評価していただけたと思います。
- ・発表時間が長くなるとプレゼンの上手下手で評価が変わってくると思います。



### 今回の低炭素杯の出場は、貴団体の今後役に立つと思われますか

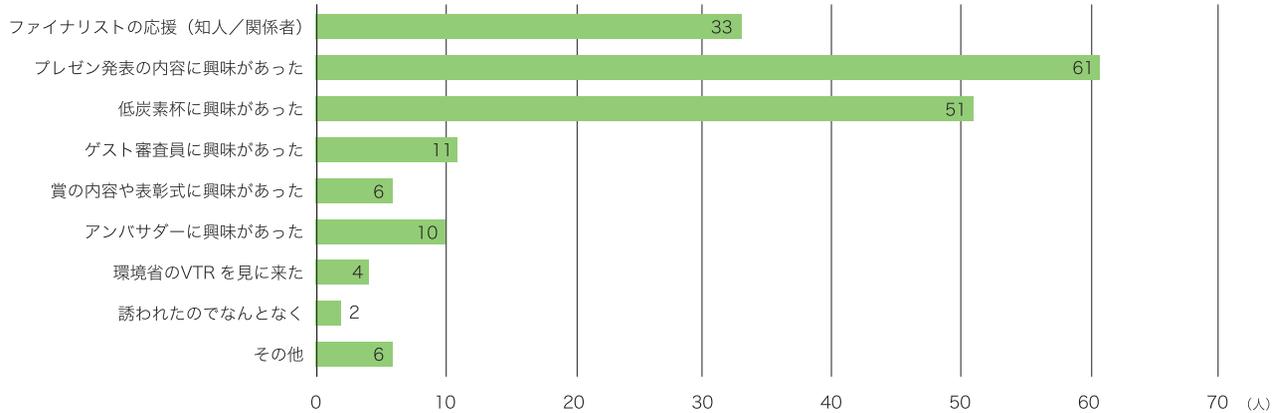
- ・大変貴重な体験をさせて頂きました。ありがとうございました。
- ・会のこれまでの活動を見つめ直す良い機会となりました。今後活かしたいと思います。
- ・生徒たちにとって人生で心に残る大会になりました。
- ・社内で低炭素施策を推進していく上で、今回の受賞は、非常に大きな要素となりました。



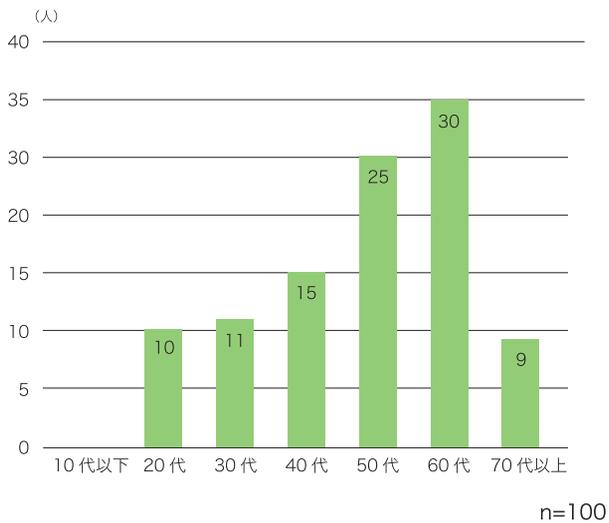
コメントはアンケートより一部抜粋

## 来場者の声

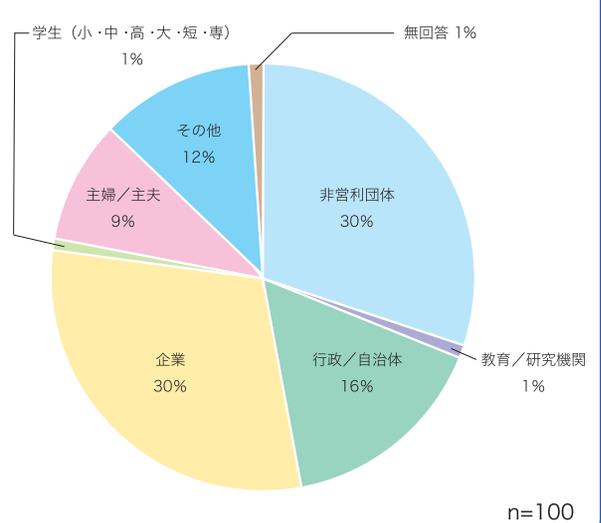
来場目的（複数回答）



年代



属性



### 感想

- ・ 充実した内容であったという間の一日でした。自分にも出来ることからはじめようと思ったし、周りにも広めていこうと意気込んでいます。ありがとうございました。
- ・ 4分というプレゼン時間は短いかと初めは思いましたが、丁度良かったように思います。
- ・ 地域を巻き込んで大規模に行っていてすごいと思った。小さいお子さん、若いメンバーが行ってて、うれしいと思った。
- ・ さかなクン登場で良い雰囲気になった。よいゲスト選定だったと思います。
- ・ 各団体の様々な活動のプレゼンを受け、大いに参考になるとともに、今後、活用できる活動について検討していきたい。
- ・ 今回は一般席が用意されていたのでよかった。タイムテーブルがwebにも出ていたら、更に参加しやすかった。

コメントはアンケートより一部抜粋

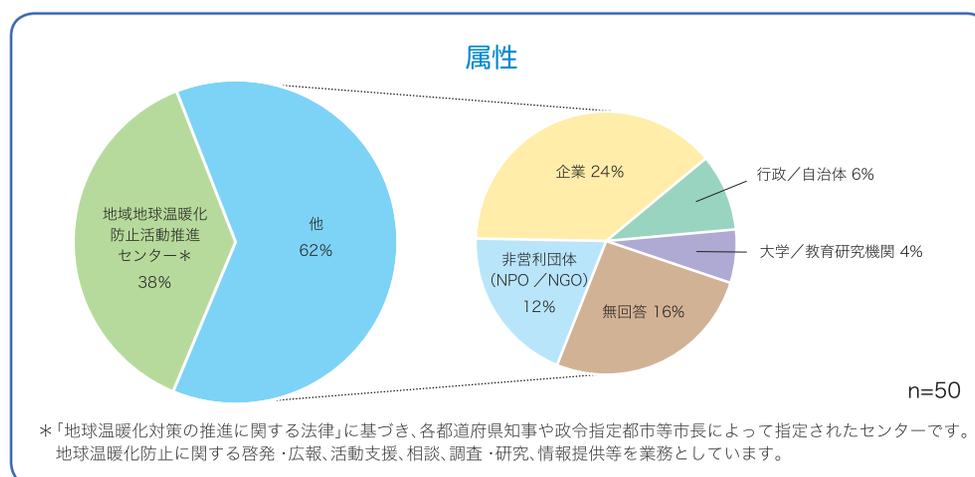
# ゲスト審査員の声

## 50名のゲスト審査員票で選ばれた「オーディエンス賞」！

より多くの方に全国のトップランナーの取り組みをご覧いただき、観客の視点からより低炭素な取り組みを評価していただき、温暖化対策に関わる専門家や従事者の方々をはじめ広く一般の方に「ゲスト審査員」を公募しました。

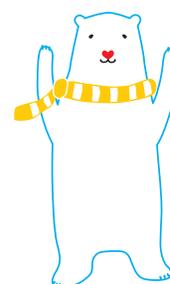
### <審査方法>

- ・ゲスト審査員はファイナリスト全26団体のプレゼンテーションをすべて見て審査する。
- ・全プレゼンテーションから、「低炭素活動」として最も感銘を受けた取り組みを選抜して2団体に投票する。
- ・得票数上位2団体にオーディエンス賞を授与する。



### オーディエンス賞得票上位5団体

順位	団体名	所在地
1	学校法人緑丘学園 水戸英宏小学校・中学校	茨城県
2	越谷市立大袋東小学校	埼玉県
3	一般社団法人海っ子の森 倉持産業株式会社	三重県 茨城県
5	佐賀市上下水道局下水プロジェクト推進部 エクセラン高等学校環境科学コース	佐賀県 長野県



### 感想

- ・初めて参加しましたが、各団体の楽しそうな生き生きとした活動に感銘を受けました。
- ・高校生の発表が内容が優れていると思います。発想が若々しいのでしょうか。
- ・すばらしかったです。特に学生部門はプレゼンの完成度、パフォーマンス性が高く、面白かったです。この取り組みは今後もぜひ続けて頂きたいです。
- ・団体を選ぶのが悩ましいので、選べる団体数を増やしてほしいです。(もしくは点数制にするとか)
- ・このような機会を通じて温暖化対策に対する国民的な機運が高まることを期待します。
- ・どの取り組みもすばらしいもので選ぶのが大変でした。これからもがんばって下さい。
- ・具体的に取り組みめるもの、考え方として参考にできるもの多数の気づきを頂きました。
- ・再生して見れるようなDVDなどがあると良いと思います。
- ・今年度もたくさんのCO<sub>2</sub>に対する工夫が提案され、なるほどという内容がたくさんわかりました。
- ・来年度はどのようにこの低炭素杯で発表された工夫が進められたり広がりを見せたのかの報告を待っています。

コメントはアンケートより一部抜粋

# 低炭素杯 2017 広報掲載一覧

「低炭素杯2017」は、エントリー募集から開催結果まで全国的に記事として取り上げていただきました。本紙ではその内の、ごく一部を抜粋して紹介いたします。

## 2016年

7月29日	Web サイト	環境省報道発表資料
8月3日	Web サイト	コージェネ財団
12月9日	Web サイト	環境省報道発表資料
12月11日	Web サイト	逆川こどもエコクラブ
12月12日	Web サイト	KDDI 公式ホームページ
12月12日	Web サイト	エコなうつわ屋さん公式ホームページ
12月12日	Web サイト	EPO 東北
12月16日	Web ニュース	ロイタージャパン
12月16日	Web ニュース	REUTERS
12月16日	Web ニュース	財経新聞
12月16日	Web ニュース	株探
12月17日	Web ニュース	ジョルダンニュース!
12月21日	Web サイト	綾瀬市
12月22日	Web サイト	藤枝市
12月26日	Web ニュース	KlugFX
12月26日	Web サイト	つなごうしずおか
12月27日	Web サイト	EPO ちゅうごく
12月29日	Web ニュース	ZIPANG TOKIO



2016年12月12日  
KDDI 公式ホームページ



2016年12月16日  
ロイタージャパン



2017年2月13日  
齊藤公太郎氏Facebook



2017年2月7日 磐田市



2017年2月16日  
さかなクンFacebook



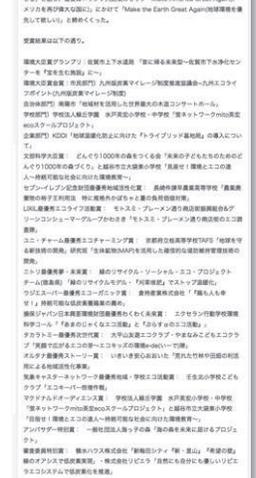
2017年2月7日 磐田市

## 2017年

1月4日	Web ニュース	どっこいしょニッポン
1月11日	Web サイト	長崎県立国見高等学校公式ホームページ
1月18日	Web サイト	早通中学校
2月7日	Web サイト	磐田市
2月8日	Web サイト	レンゴー公式ホームページ
2月16日	Web ニュース	オルタナ
2月16日	Web ニュース	Yahoo! JAPAN ニュース
2月16日	Web ニュース	SUSTAINABLE BRANDS [日本版]
2月16日	Web サイト	環境省フォトギャラリー



2017年2月16日  
関芳弘環境副大臣Twitter



2017年2月16日  
Yahoo ニュース

- 2月16日 Web サイト 尚綱学院大学公式ホームページ
- 2月17日 Web サイト エコネットさばえ
- 2月17日 Web ニュース CSR today
- 2月17日 Web ニュース JPubb
- 2月17日 Web サイト KDDI 公式ホームページ
- 2月17日 Web ニュース PR TIMES
- 2月18日 Web ニュース 一般社団法人エコマート
- 2月20日 Web サイト 徳島県立新野高等学校
- 2月21日 Web サイト 壬生北小学校
- 2月21日 Web サイト リピエラ公式ホームページ
- 2月22日 Web サイト LIXIL 公式ホームページ
- 2月23日 Web サイト みやぎ生活協同組合
- 2月23日 Web サイト ユニ・チャーム公式ホームページ
- 2月24日 Web サイト こどもエコクラブ
- 2月24日 Web ニュース 佐賀新聞
- 2月24日 Web ニュース 47NEWS
- 2月24日 新聞 佐賀新聞
- 2月26日 Web ニュース 新建ハウジング
- 2月27日 Web ニュース 水道産業新聞社
- 2月27日 新聞 水道産業新聞
- 3月1日 Web ニュース 日本水道新聞社
- 3月1日 新聞 下水道新聞
- 3月2日 Web サイト 茨城県
- 3月4日 新聞 西日本新聞
- 3月5日 Web ニュース 茨城新聞
- 3月5日 Web サイト ORICON NEWS
- 3月7日 新聞 東奥日報
- 3月9日 新聞 下野新聞



2017年2月17日  
NPO法人どんぐり1000年の森をつくる会Facebook



2017年2月17日  
おおいたうつくし作戦 Facebook



2017年2月24日 佐賀新聞



2017年2月27日  
水道産業新聞



2017年3月4日 西日本新聞



2017年3月1日 下水道新聞



2017年3月9日 下野新聞



低炭素杯2017公式Facebook

他、メルマガ、Facebook、twitter、口コミ、ブログ等でたくさんの方に  
広報協力いただきました。本当にありがとうございました。

# カーボン・オフセット証書

低炭素杯はカーボン・オフセット（東日本大震災復興支援型国内クレジット）の認証を受けています。



## Carbon Offset Certificate

カーボン・オフセット証書

2017年 1月 31日

低炭素杯実行委員会 殿  
Low Carbon Cup Executive Committee

東京都千代田区神田錦町1-12-3 第一アマイビル4階  
4F, Daiichi-Aimai BLDG., 1-12-3, Kandanshiki-Cho, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan

貴殿との間で締結した業務委託契約に基づき、カーボン・オフセットの手続きが完了したことを下記に証明します。

Certified as below that you have completed the procedure of carbon offset on the basis of our consignment contract.

オフセット対象 Boundary	低炭素杯2017の会場での電力使用に伴い発生するCO2排出量
クレジットの種類 Credit Type	国内クレジット
クレジットの数量 Amount of Credits	2 t-CO <sub>2</sub>
クレジットの無効化方法 Invalidity type	経済産業省国内クレジット用償却口座へ移転
オフセット行為の完了日 Completion Date of Offset	2017年 1月 30日
シリアル番号 Serial No.	KC-300-000-478-000-572~KC-300-000-478-000-573
プロジェクト名 Project Title	東日本大震災復興支援型国内クレジット (公衆浴場におけるボイラー高効率化による排出削減事業)
プロジェクト番号 Project No.	8047803
プロジェクトタイプ Sectoral Scope	ボイラー更新
プロジェクトの排出削減・吸収量 Amount of Reductions	337 t-CO <sub>2</sub>



Carbon Offset  
ID: T70100507



**株式会社イトーキ**  
大阪市城東区今福東1-4-12 〒536-0002

## 低炭素杯2018に向けて



一般社団法人地球温暖化防止全国ネット

理事長 長谷川 公一

2017年は、地球温暖化防止京都会議（COP3）からちょうど20年です。日本で環境活動が活発化し、温暖化防止のさまざまな取り組みがはじまった一つのメルクマールが1997年です。全国地球温暖化防止活動推進センター（JCCCA）や地域地球温暖化防止活動推進センターの役割などを定めた地球温暖化対策推進法（温対法）が成立したのはその翌年でした。

こうしたこともあってか、低炭素杯2017では、10年、20年と続いてきた活動が印象的でした。とくに文部科学大臣賞に輝いた埼玉県越谷市立大袋東小学校のプレゼンテーションでは、こどもエコクラブの活動を「おかあさんもやっていたんだって」というセリフが光っていました。母から子へ、父から子へ、地域の小学校で受け継がれてきたすばらしい活動です。グランプリに輝いた佐賀市上下水道局の下水浄化センターの取り組みも秀逸でした。下水浄化と低炭素の意外な結びつき、「昔に帰る未来型都市」の理念に圧倒されました。

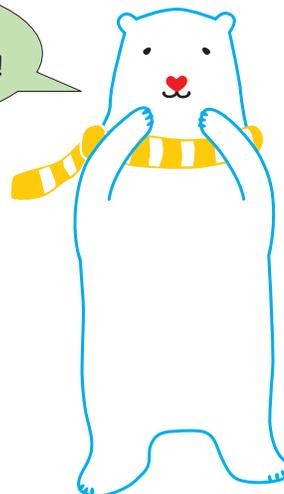
26のファイナリストのプレゼンテーションを世界的なビジネスマンのあの方に是非見ていただきたい、と思いました。自動車や新幹線だけではない、日本社会の真の強さがどこにあるかがわかっていただけたでしょう。低炭素の取り組みのどれにも、新しいビジネスのシーズ（種）があります。エコ・ファースト、低炭素ファーストの活動が、自然に地域ファーストにつながり、将来世代ファースト、地球ファーストの精神につながっている。ここにこそ未来がある。低炭素杯の精神は、Make the Earth Great Again! の精神なのだということも、ご理解いただけたのではないのでしょうか。

低炭素杯 Low Carbon Cup という全国的なコンペティションがあるのはわが国だけです。しかもすでに7回。前身の地球温暖化防止一村一品全国大会から数えると10回も開催しています。

日本が世界に誇る低炭素杯。「低炭素杯2018」は、あなたの出番です。

「低炭素杯2018」のファイナル・ステージでお目にかかりましょう。地域に根を下ろしたあなたの、「低炭素ファースト」＝「地球ファースト」の取り組みを世界中に発信してください。

低炭素杯2018で  
またお会いしましょう！



# Low Carbon Cup 2017

編集・発行 低炭素杯事務局（一般社団法人地球温暖化防止全国ネット内）

---

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 1-12-3 第一アマイビル 4 階

電話：03-6273-7785 FAX：03-5280-8100 URL：<https://www.zenkoku-net.org/teitansohai/>